

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	体育(子どもと運動)(Physical-motor-play for Children)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 リヨ								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	特になし							
授業概要： 幼児の運動遊びの基礎的な知識や技術を習得するとともに、学生の身体能力や運動技術の向上を図る。また、保育現場における運動遊びと幼児の発達段階に応じた運動遊びにおける指導法、援助法、安全管理を学ぶ。その上で、様々な運動遊びを組み合わせる応用力と遊びの立案・計画、実践について学ぶ。									
授業目標： ○幼児の発達・発達を理解し、運動遊びの指導力を身に付ける ○遊具・用具の特性に応じて動きを組み合わせ、遊びを展開することができる ○自己の身体能力や運動技術の向上を目指す ○運動遊びの企画・立案・実践を行う									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	ガイダンス（授業の進め方、評価方法の説明） 子どもの身体活動について				事前：シラバスを確認する 事後：遊びの復習			講義 50分・演習 40分	
2	幼児の運動遊び（基本的な動きの洗練化）				事前：「幼児期運動指針」の確認 事後：授業の振り返りをノートに記録する			講義 40分・演習 50分	
3	多様な動き（種類と変化。基本的な動きと分類）と指導のポイント				事前：「幼児期運動指針」の確認 事後：授業の振り返りをノートに記録する			講義 20分・演習 70分	
4	多様な動きを引き出す運動遊び（移動系の動き）				事前：配付資料の確認 事後：授業の振り返りをノートに記録する			講義 20分・演習 70分	
5	多様な動きを引き出す運動遊び（バランス系の動き）				事前：配付資料の確認 事後：授業の振り返りをノートに記録する			講義 20分・演習 70分	
6	多様な動きを引き出す運動遊び（操作系の動き）				事前：配付資料の確認 事後：授業の振り返りをノートに記録する			講義 20分・演習 70分	
7	身近な用具（新聞紙）を使った遊びと指導のポイント				事前：新聞紙遊びを思い出しておく 事後：新聞紙遊びと留意点の復習			講義 20分・演習 70分	
8	遊具（マット）を使った遊びと指導のポイント				事前：マット遊びを思い出しておくこと 事後：マット遊びと留意点の復習			講義 20分・演習 70分	
9	遊具（平均台）を使った遊びと指導のポイント				事前：平均台遊びを思い出しておく 事後：平均台遊びと留意点の復習			講義 20分・演習 70分	
10	リトミック・リズム運動（音楽に合わせた運動遊び）				事前：リズム運動の種類を予習しておく 事後：リズム運動の内容と留意点の復習			講義 20分・演習 70分	
11	運動遊びの指導案作成（演習に向けて）				事前：運動遊びの種類を予習しておく 事後：運動遊びの指導案の復習			講義 20分・演習 70分	
12	グループ活動（模擬保育）				事前：模擬保育に向けた細案の作成 事後：模擬保育の振り返り			講義 10分・演習 80分	
13	グループ活動（模擬保育）				事前：模擬保育に向けた細案の作成 事後：模擬保育の振り返り			講義 10分・演習 80分	
14	模擬保育の振り返り（成果と課題）				事前：模擬保育の振り返り（成果と活動） 事後：実践を保育に活かす意識			講義 40分、グループワーク 30分、発表 20分	
15	講義の振り返り・まとめ				事前：科目の学びを振り返っておく 事後：実践経験を保育に活かす意識			講義 40分、グループワーク 30分、発表 20分	
教本： 特になし。適宜プリントを配布する。					参考文献： 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレール館）（いずれも最新版）。 「幼児期運動指針」文部科学省				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、表現創作と発表（40%）、レポート課題（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 運動遊びの基礎を学ぶ科目です。保育を行うための方法や技術を身に付け、子どもの運動発達を支える専門的知識をもった総合的実践力を構築することを目指します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	対 人 関 係 の 心 理 学 (Interpersonal Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	「コミュニケーション心理学」を履修済みであること							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 本講義では、日常生活における対人関係で何が起きているのかについて、心理学の理論やワークを通して学ぶ。									
授 業 目 標 : 自らが体験している対人関係や、周囲の対人関係について、客観的に考えることができるようになる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習			講 義	
2	多様な対人関係				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義 40分、 グ ル ー プ ワ ー ク 50分	
3	対人認知				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義 40分、 グ ル ー プ ワ ー ク 50分	
4	原因帰属				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義 40分、 グ ル ー プ ワ ー ク 50分	
5	対人魅力				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義 40分、 グ ル ー プ ワ ー ク 50分	
6	リーダーシップ				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義 40分、 グ ル ー プ ワ ー ク 50分	
7	友人関係				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義 40分、 グ ル ー プ ワ ー ク 50分	
8	恋愛関係				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義 40分、 グ ル ー プ ワ ー ク 50分	
9	親子関係				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義 40分、 グ ル ー プ ワ ー ク 50分	
10	関係性のテンプレート：アタッチメント①				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義 40分、 グ ル ー プ ワ ー ク 50分	
11	関係性のテンプレート：アタッチメント②				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義 40分、 グ ル ー プ ワ ー ク 50分	
12	対人関係と心理臨床的問題①				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義 40分、 グ ル ー プ ワ ー ク 50分	
13	対人関係と心理臨床的問題②				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義 40分、 グ ル ー プ ワ ー ク 50分	
14	対人関係と心理臨床的問題③				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義 40分、 グ ル ー プ ワ ー ク 50分	
15	まとめ				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える			講 義	
教 本 : なし。授業中に資料を配布する。					参 考 文 献 : 授業中に、適宜紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等 (50%)、テスト (50%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講義には、グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	多 変 量 解 析 法 入 門 (Introduction to Multivariate Statistical Analysis)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	心 理 学 統 計 法、心 理 学 研 究 法、社 会 調 査 法、社 会 心 理 学 実 験 演 習 等、基 礎 的 な 統 計 学、研 究 法 を 履 修 済 み で あ る こ と							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>統計解析において多変量解析法が用いられることは多く、多変量解析法による分析の結果を読みこなせるようになることにより、客観的記述を正確に理解することができるようになるだろう。本授業では、多変量解析法として、因子分析、二元配置の分散分析、重回帰分析／パス解析を取り上げる。前半では多変量解析を用いた論文の読み方を学んだ上で分析の実験を体験する。そして後半では、自分たちが立てた問いに基づく調査を実施して、データを分析し、結果をまとめ、発表し、レポートにまとめるといった一連の研究のプロセスを体験する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>多変量解析を用いた論文を読んで理解できるようになる。 自分の研究（卒業論文など）で多変量解析を用いることができるようになる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オリエンテーション、データ解析の基礎				事前：学習済みのデータ解析法について復習しておく 事後：データ解析法の復習			講義	
2	多変量解析とは				事前： 事後：多変量解析を用いた原著論文を検索する			講義	
3	因子分析を用いた論文を読む				事前：因子分析を用いた論文を持参する 事後：因子分析を用いた論文を読む			講義	
4	因子分析演習				事前：因子分析について復習しておく 事後：因子分析をやってみる			講義 40分、演習 50分	
5	二元配置の分散分析を用いた論文を読む				事前：二元配置の分散分析を用いた論文を持参する 事後：二元配置の分散分析を用いた論文を読む			講義	
6	二元配置の分散分析演習				事前：二元配置の分散分析について復習しておく 事後：二元配置の分散分析をやってみる			講義 40分、演習 50分	
7	重回帰分析／パス解析を用いた論文を読む				事前：重回帰分析／パス解析を用いた論文を持参する 事後：重回帰分析／パス解析を用いた論文を読む			講義	
8	重回帰分析演習				事前：重回帰分析／パス解析について復習しておく 事後：重回帰分析をやってみる			講義 40分、演習 50分	
9	多変量解析を用いた研究の体験：研究デザインの立案				事前：研究デザインを考える 事後：調査紙を作成する			講義 20分、 グループワーク 70分	
10	多変量解析を用いた研究の体験：調査の実施				事前：調査紙を準備する 事後：調査を実施する			講義 20分、 グループワーク 70分	
11	多変量解析を用いた研究の体験：データ解析				事前：回答済み調査紙を回収する 事後：データ解析する			講義 20分、 グループワーク 70分	
12	多変量解析を用いた研究の体験：解析結果の解釈				事前：解析結果を解釈してみる 事後：解析結果を解釈する			講義 20分、 グループワーク 70分	
13	多変量解析を用いた研究の体験：結果発表資料の作成				事前：研究の流れを振り返る 事後：発表資料を作成する			講義 20分、 グループワーク 70分	
14	多変量解析を用いた研究の体験：研究発表会				事前：発表準備 事後：各発表内容について考察する			発表 30分、討議 60分	
15	まとめ、レポートの書き方				事前：多変量解析について復習する 事後：研究結果をレポートにまとめる			講義 40分、演習 50分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
指定しない					授 業 中 に 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、レ ポー ト (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講 義 に は、グ ルー プ ワー ク、デ イ ス カ ッ シ ョ ン、プ レ ゼ ン テー シ ョ ン 等 を 取 り 入 れ る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域観光論 (Regional Tourism)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>わが国の「各県別地誌」に関し具体的作業（実習）を通し、わが国の地誌学的素養を身に着ける。わが国は、どのような地域から成り立っているのか、そして「それぞれの地域はどのような特色や成立過程をもっているかなどの地域差」を理解するために、自然的要素や人文・社会的要素を広く学習する。本講義では、日本の自然と生活や産業等の地域的な特徴を確認した後、国内における地域的な特徴について、全国を北海道から九州に区分し、それぞれの地方の自然と生活や産業の特徴を総合的な視点から講義する。当該講義は、このような作業を通し地域観光資源の特性を把握し、観光学の基礎（必須の知識）を習得することにある。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>① わが国の各県の地誌的特性を理解する。 ② 地誌的理解を深めるため、系統地理的な知識も同時に理解する。 ③ このような作業を通し各県の「観光資源」の実態的特性を把握する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション、47都道府県の位置、都道府県庁所在地の確認をする。北海道の観光資源を白地図に書き入れる			事前：シラバスを読む事後：地図帳で確認する			講義20分、プリント記入20分、北海道の講義30分、白地図記入20分		
2	青森県・岩手県・秋田県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：北海道の白地図を見直す。事後：青森県・岩手県・秋田県を地図で確認する			3県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
3	山形県・宮城県・福島県・新潟県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：青森県・岩手県・秋田県の白地図を見直す事後：山形県・宮城県・福島県・新潟県を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
4	栃木県・茨城県・群馬県・埼玉県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：山形県・宮城県・福島県・新潟県の白地図を見直す事後：栃木県・茨城県・群馬県・埼玉県を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
5	千葉県、東京都、山梨県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：栃木県・茨城県・群馬県・埼玉県の白地図を見直す事後：千葉県、東京都、山梨県を地図で確認する			3県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
6	静岡県、長野県、岐阜県、愛知県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：千葉県、東京都、山梨県の白地図を見直す事後：静岡県、長野県、岐阜県、愛知県の観光資源を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
7	富山県、石川県、福井県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる			事前：静岡県、長野県、岐阜県、愛知県の白地図を見直す事後：富山県、石川県、福井県の観光資源を地図で確認する			3県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
8	滋賀県、京都府、兵庫県、岡山県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：富山県、石川県、福井県の白地図を見直す事後：滋賀県、京都府、兵庫県、岡山県の観光資源を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
9	三重県、奈良県、大阪府、和歌山県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる			事前：滋賀県、京都府、兵庫県、岡山県の白地図を見直す事後：三重県、奈良県、大阪府、和歌山県の観光資源を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
10	鳥取県、島根県、広島県、山口県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：三重県、奈良県、大阪府、和歌山県の白地図を見直す事後：鳥取県、島根県、広島県、山口県の観光資源を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
11	香川県、愛媛県、徳島県、高知県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：鳥取県、島根県、広島県、山口県の白地図を見直す事後：香川県、愛媛県、徳島県、高知県の観光資源を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
12	福岡県、大分県、長崎県、佐賀県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：香川県、愛媛県、徳島県、高知県の白地図を見直す事後：福岡県、大分県、長崎県、佐賀県の観光資源を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
13	宮崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：福岡県、大分県、長崎県、佐賀県の白地図を見直す事後：宮崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県の観光資源を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
14	神奈川県、厚木市の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる			事前：宮崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県の白地図を見直す事後：神奈川県、厚木市の観光資源を地図で確認する			神奈川県の講義40分、厚木市の講義20分、白地図記入30分		
15	47都道府県の観光資源と県庁所在地の確認し、その特徴を習得する。			事前：白地図ファイルの整理事後：テストに向けての学習			白地図記入40分、自己採点10分、再確認40分		
<p>教本：日本地図帳（中学校、高校時のものがあればそれを）初回時、説明する。 旅に出たくなる地図 日本（帝国書院）¥2,400（税別）</p> <p>参考文献：</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>観光資源（観光目的地的実態的環境）を理解することは観光学にとって基礎的素養です。2年生前期に受講することを勧める。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域観光論 I (Regional Tourism I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： わが国の「各県別地誌」に関し具体的作業（実習）を通し、わが国の地誌学的素養を身に着ける。わが国は、どのような地域から成り立っているのか、そして「それぞれの地域はどのような特色や成立過程をもっているかなどの地域差」を理解するために、自然的要素や人文・社会的要素を広く学習する。本講義では、日本の自然と生活や産業等の地域的な特徴を確認した後、国内における地域的な特徴について、全国を北海道から九州に区分し、それぞれの地方の自然と生活や産業の特徴を総合的な視点から講義する。当該講義は、このような作業を通し地域観光資源の特性を把握し、観光学の基礎（必須の知識）を習得することにある。									
授業目標： ① わが国の各県の地誌的特性を理解する。 ② 地誌的理解を深めるため、系統地理的な知識も同時に理解する。 ③ このような作業を通し各県の「観光資源」の実態的特性を把握する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション、47都道府県の位置、都道府県庁所在地の確認をする。北海道の観光資源を白地図に書き入れる			事前：シラバスを読む事後：地図帳で確認する			講義20分、プリント記入20分、北海道の講義30分、白地図記入20分		
2	青森県・岩手県・秋田県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：北海道の白地図を見直す。事後：青森県・岩手県・秋田県を地図で確認する			3県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
3	山形県・宮城県・福島県・新潟県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：青森県・岩手県・秋田県の白地図を見直す事後：山形県・宮城県・福島県・新潟県を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
4	栃木県・茨城県・群馬県・埼玉県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：山形県・宮城県・福島県・新潟県の白地図を見直す事後：栃木県・茨城県・群馬県・埼玉県を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
5	千葉県・東京都・山梨県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：栃木県・茨城県・群馬県・埼玉県の白地図を見直す事後：千葉県・東京都・山梨県を地図で確認する			3県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
6	静岡県・長野県・岐阜県・愛知県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：千葉県・東京都・山梨県の白地図を見直す事後：静岡県・長野県・岐阜県、愛知県の観光資源を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
7	富山県、石川県、福井県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる			事前：静岡県、長野県、岐阜県、愛知県の白地図を見直す事後：富山県、石川県、福井県の観光資源を地図で確認する			3県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
8	滋賀県、京都府、兵庫県、岡山県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：富山県、石川県、福井県の白地図を見直す事後：滋賀県、京都府、兵庫県、岡山県の観光資源を地図で確認する。			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
9	三重県、奈良県、大阪府、和歌山県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる			事前：滋賀県、京都府、兵庫県、岡山県の白地図を見直す事後：三重県、奈良県、大阪府、和歌山県の観光資源を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
10	鳥取県、島根県、広島県、山口県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：三重県、奈良県、大阪府、和歌山県の白地図を見直す事後：鳥取県、島根県、広島県、山口県の観光資源を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
11	香川県、愛媛県、徳島県、高知県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：鳥取県、島根県、広島県、山口県の白地図を見直す事後：香川県、愛媛県、徳島県、高知県の観光資源を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
12	福岡県、大分県、長崎県、佐賀県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：香川県、愛媛県、徳島県、高知県の白地図を見直す事後：福岡県、大分県、長崎県、佐賀県の観光資源を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
13	宮崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。			事前：福岡県、大分県、長崎県、佐賀県の白地図を見直す事後：宮崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県の観光資源を地図で確認する			4県の講義合計60分、白地図記入合計30分		
14	神奈川県、厚木市の観光資源について、地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる			事前：宮崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県の白地図を見直す事後：神奈川県、厚木市の観光資源を地図で確認する			神奈川県の講義40分、厚木市の講義20分、白地図記入30分		
15	47都道府県の観光資源と県庁所在地の確認し、その特徴を習得する。			事前：白地図ファイルの整理事後：テストに向けての学習			白地図記入40分、自己採点10分、再確認40分		
教本： 日本地図帳（中学校、高校時のものがあればそれを）初回時、説明する。 参考文献： 旅に出たくなる地図 日本（帝国書院）¥2,400（税別）									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。									
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 観光資源（観光目的地的実態的環境）を理解することは観光学にとって基礎的素養です。2年生前期に受講することを勧める。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域観光論Ⅱ (Regional Tourism Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 地域観光を支える地域資源について観光資源学的視点から説明する。まず、「地域資源と観光資源の差異」「観光資源の分類」などを説明し、各々の具体的様相と事例を説明する。そして、地理的領域から、観光資源の「複合性」と「多様性」を説明する。この「複合・多様性」に着眼し、各種の地域・観光資源の実相を「観光対象としての認知的視点」も包含した内容で概略する。各回、ブリーフな「ディスカッション」、「ディベート」を実施し講義内容の理解を深める。シラバス中にやや難解な用語が含まれているかもしれませんが、講義では丁寧に分かりやすく説明します。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示いたします。									
授業目標： ① 観光資源の概念・分類を理解する。 ② 観光資源とアトラクションに関係性を理解する。 ③ 具体的な観光資源の実態を理解できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	地域観光と観光資源 (観光資源学の歴史とその概要)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、 講義70分、小レポート10分	
3	観光資源の分類 (形態上の分類、マネジメント上の分類)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、 講義70分、小レポート10分	
4	観光アトラクションの三つの視点(1) (Lew(1987))の3視点の意味と内容)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、 講義70分、小レポート10分	
5	地域資源とツーリズム(自然環境①) (その特性と観光学的意味)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、 講義70分、小レポート10分	
6	地域資源とツーリズム(自然環境②) (事例、地域地質を観光対象とするジオツーリズムに関して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、 講義70分、小レポート10分	
7	地域資源とツーリズム(地域文化①) (その特性と観光学的意味)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、 講義70分、小レポート10分	
8	地域資源とツーリズム(地域文化②) (地域文化に関わる事例を通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、 講義70分、小レポート10分	
9	地域資源とツーリズム(農業) (その特性と観光学的意味)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、 講義70分、小レポート10分	
10	地域資源とツーリズム(工業) (産業ツーリズムについて)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、 講義70分、小レポート10分	
11	地域資源とツーリズム(都市環境①) (その特性と観光学的意味：都市型観光)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、 講義70分、小レポート10分	
12	地域資源とツーリズム(都市環境②)(構成的視点：季節・時刻(昼夜など)等のファクターを含めて)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、 講義70分、小レポート10分	
13	観光資源と観光対象(アトラクション)(観光学における両者の差異と観光行動・マーケティングでの理解)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、 講義70分、小レポート10分	
14	観光資源学の変遷と今後の課題(アトラクションの意味と観光対象化(アトラクション化)の議論を踏まえて)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、 講義70分、小レポート10分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教本： 毎回資料を配布する。					参考文献： 適時指定する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 観光資源学の「静的側面と動的側面」の両者を学修して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 金 融 論 (Regional Finance)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 猛 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	金 融 概 論 ・ 経 済 学 ・ 会 計 学 を 履 修 し て い る こ と 。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>地域金融論は、ある特定地域における金融機関、企業（主として中小企業）および家計（消費者、生活者）をめぐるお金の流れについて、学んでいくものであり、ひいては地域経済を理解していくことにつながる。地域経済と地域金融との結びつきを常に念頭に置きながら勉強を進めていく。最終的には、皆さんにケーススタディに取り組んでもらうことを考えている。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>① 金融機関の役割を理解する。 ② 企業の資金調達・運用の理解財務諸表の分析 ③ ケーススタディへの取り組み</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：なし		講義	
2～6	金融機関の種類と役割 都市銀行、地方銀行、第二地方銀行、信用金庫、信用組合 証券会社、保険会社、JA					事前：予習 事後：復習		講義	
7～11	企業の資金調達と運用、財務諸表分析 負債調達・株式調達、投資行動の決定、資本コスト 貸借対照表、損益計算書。キャッシュフロー計算書 財務指標の見方					事前：予習 事後：復習		講義	
12～15	ケーススタディ 地域の特定によるケーススタディ					事前：予習 事後：復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
追って指示する									
成 績 評 価 の 方 法、 評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (30%)、 レ ポ ー ト 等 (30%)、 定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
総 合 的 ・ 包 括 的 に と ら え る 訓 練 を し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え ま す 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 子 育 て 支 援 論 (Methodology of Local Child Care Support)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>現代の地域子育て支援の状況をふまえ、社会全体での多様な支援のあり方について考え、自分たちができる支援を実践として行うことを通し、支援の対象と内容、支援が持つ意味を具体的に演習を通して学ぶ。特に、子育てをめぐる現代の問題を予防・解決する方策として、保育所、幼稚園および地域の子育て支援活動等の支援活動についての理解を深め、学生自身が子育て支援活動に参加しながら、保護者や子どもと接し、地域や社会との関係、関係機関との連携などのアプローチについて実践を通して理解し、実践力を高める。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①地域子育て支援を多角的に捉える力を身につける。(1～8)</p> <p>②地域子育て支援や地域コミュニティの指導的役割が発揮できるようにする。(9～15)</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 子育て支援が必要とされる背景					事前：シラバスの確認 事後：自己紹介		講義 (90分)	
2	幼稚園における子育て支援—幼稚園における子育て支援の状況について考える。					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義 (90分)	
3	幼稚園における子育て支援の現状について情報収集を行い、地域の実態の応じた子育て支援について考える。					事前：資料収集 事後：現場での復習		講義 (20分)・ グループ (70分)	
4	幼保連携型認定こども園における子育て支援の現状について情報収集を行い、地域の実態の応じた子育て支援について考える。					事前：資料収集 事後：指定資料の復習		講義 (20分)・ グループ (70分)	
5	保育所における子育て支援の現状について情報収集を行い、地域の実態の応じた子育て支援について考える。					事前：資料収集 事後：現場での復習		講義 (20分)・ グループ (70分)	
6	地域子育て支援センターの役割—相談・支援・サロン運営等の役割 地域子育て支援センター「もみじの手」について調べる。					事前：資料収集 事後：指定資料の復習		講義 (30分)・ 情報収集 (60分)	
7	地域子育て支援センターの現場を知る—子育て支援センター「もみじの手」の体験学習を通して、子育て支援の現状について考える。					事前：資料収集 事後：現場での復習		体験学習 (90分)	
8	子育て支援センター「もみじの手」体験学習において、学んだことについて発表する。					事前：資料収集 事後：指定資料の復習		講義 (20分) 発表 (70分)	
9	その他の地域支援を知る—子育て広場、児童館・学童保育、住民による保育サービス等について考える。					事前：資料収集 事後：指定資料の復習		講義 (60分) グループ (30分)	
10	地域コミュニティとしての担い手—現役世代・父親・母親の役割について考える。					事前：資料収集 事後：指定資料の復習		講義 (90分)	
11	地域コミュニティとしての担い手—シニア世代について考える。					事前：資料収集 事後：指定資料の復習		講義 (90分)	
12	地域コミュニティとしての担い手—次世代の育成について考える。					事前：資料収集 事後：指定資料の復習		講義 (90分)	
13	障害のある子どもとその家族への支援について考える。					事前：資料収集 事後：指定資料の復習		講義 (90分)	
14	児童への虐待とその予防について考える。					事前：資料収集 事後：指定資料の復習		講義 (90分)	
15	これまでの学習を基に子育て支援や地域コミュニティづくりの指導者として必要な力は何かについて考える。					事前：資料のまとめ 事後：振り返りをする		講義 (30分)・ グループ (60分)	
教 本 :									
1. 講義内で指定資料配布					参 考 文 献 :				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 ・ 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 ・ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
授 業 参 加 状 況 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 棟 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
各回の講義で示す課題や自己課題について復習し整理するとともに「地域子育て支援」の意味を問い続ける姿勢を保ち、テキストやプリントを積極的に読み、考え、子育て支援や地域コミュニティづくりの指導的役割ができるような資質を持ってもらいたい。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域コミュニティ論 (Regional Community)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 地域コミュニティは、地域振興や活性化において重要な役割を担っている。それにも増し、人間形成の場としての重要性が指摘されている。この観点から、教育を担う「家庭・学校」と共同生活の場である「地域コミュニティ」の連携の必要性が取り上げられ、今後の地域活性化が期待されている。子供や保護者の地域コミュニティへの参加は交流活動を促進し、健全な育成や郷土の愛着と誇りの醸成を促し、子供に限らず成人の人間形成にも有用と言われていいる。講義において、受講生には身近な地域社会での体験や教育経験を回顧することにより、その経験を「地域コミュニティ」で課題解決等に役立てることを目指す。そして、実践事例を通し今後の地域コミュニティづくりの担い手に求められる能力の基礎的な知識を学修する。したがって、講義は、各回ブリーフな「ディスカッション」、「ディベート」を実施し、実践的に講義を展開する。講義形態は、各回講義時間内にディスカッションの時間を含みます。									
授業目標： ① 地域・コミュニティの概念およびその役割を理解する。 ② 「学校・家庭および地域コミュニティ」の連携の意味を理解する。 ③ より良き地域コミュニティづくりのための指導的役割を發揮するための基礎的能力を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション			事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習			講義90分		
2	地域・コミュニティの概念と定義			事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分		
3	地域コミュニティの目的と課題			事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分		
4	教育・学習環境としての地域コミュニティ			事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分		
5	学校と地域コミュニティ			事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分		
6	地域における総合的な学習活動と地域コミュニティ			事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分		
7	地域と学校の安全教育			事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分		
8	子どもの地域における生活体験活動(1)			事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分		
9	子どもの地域における生活体験活動(2)			事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分		
10	地域コミュニティの活性化と都市・中山間地域交流			事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分		
11	地域文化の体験・継承(1) (意義とその教育的役割)			事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分		
12	地域文化の体験・継承(2) (今後の地域に関わる教育への役割)			事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分		
13	地域コミュニティにおける各ステークホルダーの役割			事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分		
14	地域コミュニティ教育の役割の今後の課題と期待			事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分		
15	まとめ			事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習			前回の確認10分、講義80分		
教本： 毎回の授業で資料を配布します。					参考文献： 適時指定する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 実習的内容を含みます。積極的に受講してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 振 興 論 (Regional Promotion)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	飯 島 祥 二								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>地域振興の概念を説明し、わが国の地域振興の成立と内容を概説する。次に、地域振興の基本的課題である産業振興、コミュニティの育成、地域資源のブランド化などを、都市・地域環境の基幹的計画である国土計画・都市計画を俯瞰しながら論ずる。そして、地域振興と観光振興の関係性を考察し、今後の観光振興のありかたについて説明する。講義は、「実習」を含み、講義内容の理解を深める。シラバス中にやや難解な用語が含まれているかもしれませんが、講義では丁寧に分かりやすく説明します。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示いたします。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>① 地域振興の概念・成立などを理解する。 ② 都市計画の概念と手法を地域振興の関係性において理解する。 ③ 地域振興と観光振興の関係性を理解する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	地域振興の意味と定義					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	都市計画・地域振興・観光振興 (ハード的・ソフト的という軸における関係性)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
4	都市計画の歴史 (都市という居住空間の計画史と地域振興)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	わが国の都市計画 (1) (原理と基本的タームの理解)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
6	わが国の都市計画 (2) (都市計画の手法と内容：都市計画図の講読実習 [用途地域、建蔽率など])					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
7	英国の都市環境と都市計画 (1) (英国の都市計画史)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
8	英国の都市環境と都市計画 (2) (英国の都市計画と観光資源：観光資源の分析の実習)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
9	観光地計画と都市計画 (1) (各々の定義とその差異について)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
10	観光地計画と都市計画 (2) (都市域における観光地計画の実際)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
11	国土計画と観光振興 (1) (全国総合開発計画の歴史の変遷)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
12	国土計画と観光振興 (2) (観光振興と全国総合開発計画)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
13	地域振興と観光振興 (1) (その複合的側面：事例の提示を通して [国内])					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
14	地域振興と観光振興 (2) (それらの複合的側面：事例の提示を通して [海外])					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
15	まとめ					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
毎回資料を配布する。					適時指定する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
地 域 振 興 の 基 底 に あ る 「国 土 計 画 や 都 市 計 画」を 考 え な が ら 「観 光 振 興」を 考 え ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 振 興 論 I (Regional Promotion I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	飯 島 祥 二								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>地域振興の概念を説明し、わが国の地域振興の成立と内容を概説する。次に、地域振興の基本的課題である産業振興、コミュニティの育成、地域資源のブランド化などを、都市・地域環境の基幹的計画である国土計画・都市計画を俯瞰しながら論ずる。そして、地域振興と観光振興の関係性を考察し、今後の観光振興のありかたについて説明する。講義は、「実習」を含み、講義内容の理解を深める。シラバス中にやや難解な用語が含まれているかもしれませんが、講義では丁寧に分かりやすく説明します。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示いたします。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>① 地域振興の概念・成立などを理解する。 ② 都市計画の概念と手法を地域振興の関係性において理解する。 ③ 地域振興と観光振興の関係性を理解する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習			講義90分	
2	地域振興の意味と定義				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	都市計画・地域振興・観光振興 (ハード的・ソフト的という軸における関係性)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
4	都市計画の歴史 (都市という居住空間の計画史と地域振興)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	わが国の都市計画 (1) (原理と基本的タームの理解)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
6	わが国の都市計画 (2) (都市計画の手法と内容：都市計画図の講読実習 [用途地域、建蔽率など])				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
7	英国の都市環境と都市計画 (1) (英国の都市計画史)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
8	英国の都市環境と都市計画 (2) (英国の都市計画と観光資源：観光資源の分析の実習)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
9	観光地計画と都市計画 (1) (各々の定義とその差異について)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
10	観光地計画と都市計画 (2) (都市域における観光地計画の実際)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
11	国土計画と観光振興 (1) (全国総合開発計画の歴史の変遷)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
12	国土計画と観光振興 (2) (観光振興と全国総合開発計画)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
13	地域振興と観光振興 (1) (その複合的側面：事例の提示を通して [国内])				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
14	地域振興と観光振興 (2) (それらの複合的側面：事例の提示を通して [海外])				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
15	まとめ				事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習			前回の確認10分、講義80分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
毎回資料を配布する。					適時指定する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
地 域 振 興 の 基 底 に あ る 「国 土 計 画 や 都 市 計 画」を 考 え な が ら 「観 光 振 興」を 考 え ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	地域振興論Ⅱ (Regional Promotion Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 地域振興の概念を説明し、わが国の地域振興の成り立ちと内容を概説する。本講義の目的は、地域振興・観光振興を推進する上で必要な計画、調査等における基礎的知識を修得することにある。まず、地域振興・観光振興の具体的事例を提示して、両者の関係性を論ずる。また、観光領域から、地域振興を考える事例を示し、「具体的な調査手法」・「調査による成果」を「実習」を通し提示する。シラバス中にやや難解な用語が含まれているかもしれませんが、講義では丁寧に分かりやすく説明します。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示いたします。									
授業目標： ① 観光による地域振興の現状・意義・役割を修得する。 ② テーマ別・地域・形態別の観光振興の手法について修得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	地域振興と観光振興（1） （成り立ちと両者の差異）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	地域振興と観光振興（2） （観光学の枠組みから似た両者の関係性）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
4	地域振興と観光まちづくり（1） （具体的事例：国内）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	地域振興と観光まちづくり（2） （具体的事例：国内（海外も含む））					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
6	伝統的建造物群保存保存地区と地域振興① （その概要と伝建地区の地理的分布）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
7	伝統的建造物群保存保存地区と地域振興② （保存の手法と地域環境：実習（分析方法））					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
8	伝統的建造物群保存保存地区と地域振興③ （保存に関わる地域振興の側面と観光振興の側面）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
9	伝統的建造物群保存保存地区における地域振興① （観光アトラクションとしての保存地区）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
10	伝統的建造物群保存保存地区における地域振興② （アトラクションの計測手法 [レバトリリーグリッド発展手法等を用いて]：実習（測定手法の実践））					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
11	伝統的建造物群保存保存地区における地域振興② （アトラクションの計測手法の飛騨高山における研究事例）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
12	商業的観光目的地内の認知的構造と地域振興（1） （フロント・バックの観光学的意味）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
13	商業的観光目的地内の認知的構造と地域振興（2） （沖縄県那覇市国際通りにおけるフロント・バックの様相と地域振興・観光振興：実習（測定手法・分析））					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
14	「地域振興」と「観光振興」融合と相克					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
15	まとめ					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教本： 毎回資料を配布する。					参考文献： 適時指定する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 地域振興と観光振興の方法や事例を紹介します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 史 I (Cultural History of Areas I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 倍 宰								
履 修 条 件	前 提 科 目	文 化 人 類 学 な だ の 文 化 学							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 東 ア ジ ア , と り わ け 日 本 の 文 化 を 歴 史 的 な 視 点 か ら 捉 え な お す こ と が , 本 講 義 の 目 的 に な る 。									
授 業 目 標 : 教 科 書 的 歴 史 だ け で は な い 歴 史 を 知 る こ と 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 , 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 , 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	地 域 と は 何 か , 地 域 文 化 と は 何 か					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
2	社 会 構 造 と い う 考 え 方					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
3	歴 史 と 構 造					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
4	日 本 の 地 域 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
5	日 本 の 地 域 文 化 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
6	沖 縄 ・ 宮 古 の 地 域 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
7	沖 縄 ・ 宮 古 の 地 域 文 化 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
8	琉 球 文 化 と 地 域 性					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
9	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 新 宿					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
10	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 新 宿 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
11	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 新 宿 3					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
12	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 渋 谷					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
13	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 渋 谷 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
14	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 渋 谷 3					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
15	試 験 あ る い は レ ポ ー ト					事 前 : ノ ー ト 整 理 事 後 :		試 験 あ る い は レ ポ ー ト	
教 本 : な し					参 考 文 献 : 授 業 中 に た く さ ん 紹 介 し ま す 。				
成 績 評 価 の 方 法 , 評 価 基 準 : 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : わ か ら な い こ と が あ っ て も , あ き ら め な い こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 史 II (Cultural History of Areas II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 倍 宰								
履 修 条 件	前 提 科 目	文 化 人 類 学 等 の 文 化 学							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 前 期 の 地 域 文 化 史 I を ベー ス に、 範 囲 を 拡 大 し、 東 南 ア ジ ア ま で を 視 野 に 入 れ て い く。									
授 業 目 標 : 異 なる 文 化 と ど の よう に 関 係 を 創 り 上 げ て い く の か に 関 し て、 自 分 の 視 点 を 持 つ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、 重 要 に○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	地 域 文 化 史 I の 復 習					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
2	東 南 ア ジ ア の 地 域 性					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
3	大 陸 の 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
4	大 陸 の 文 化 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
5	大 陸 の 文 化 3					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
6	島 嶼 部 の 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
7	島 嶼 部 の 文 化 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
8	島 嶼 部 の 文 化 3					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
9	異 文 化 接 触 と 地 域 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
10	異 文 化 接 触 と 地 域 文 化 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
11	地 域 文 化 と 政 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
12	地 域 文 化 と 政 策 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
13	地 域 文 化 と 政 策 3					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
14	地 域 と 歴 史					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
15	試 験 あ る い は レ ポー ト					事 前 : ノー ト 整 理 事 後 :		試 験 あ る い は レ ポー ト	
教 本 : な し					参 考 文 献 : 授 業 中 に た く さ ん 紹 介 し ま す。				
成 績 評 価 の 方 法、 評 価 基 準 : 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、 小 テ ス ト ・ レ ポー ト 等 (20%)、 定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 複 雑 な こ と から 逃 げ な い よう に。									
オ フ ィ ス ア ワー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 (Regional Cultures)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。</p> <p>2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 の 説 明 ◇地域文化論の全体像を概観する。					事前：教本 pp.1~3精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。					事前：教本 pp.3~9精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史~中国少数民族の生活を知る。					事前：教本 pp.236~242精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	文 化 ① せめぎ合いの場としての文化~文明の衝突を理解する。					事前：教本 pp.11~16精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	文 化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。					事前：教本 pp.16~19精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ① コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 と 寛 容 性 の 理 解 を 深 め る 。					事前：教本 pp.19~24精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ② 想 像 / 創 造 す る 力 の 可 能 性 を と も に 考 え る 。					事前：教本 pp.24~31精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	言 語 ① 英 語 帝 国 主 義 ~ 日 本 人 は な ぜ 英 語 が 話 せ な い の か 。					事前：教本 pp.108~117精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	言 語 ② 国 家 と 標 準 語 ・ 方 言 と の 関 係 を 考 え る 。					事前：教本 pp.117~134精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	非 言 語 ① 非 言 語 メ ッ セ ー ジ と ス テ レ オ タ イ プ の 関 係 を 考 え る 。					事前：教本 pp.135~144精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	非 言 語 ② 沈 黙 の 意 味 ~ 日 本 人 と 以 心 伝 心 と の 関 係 を 考 え る 。					事前：教本 pp.144~152精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
12	時 間 ・ 空 間 - 記 憶 と 忘 却 と の 関 係 性 に つ い て、東 日 本 大 震 災 を 基 に 議 論 を 深 め る 。					事前：教本 pp.152~157精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
13	発 展 学 習 ① 生 物 多 様 性 と 文 化 と の か か わ り を 考 え る 。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
14	発 展 学 習 ② 建 築 と 文 化 と の か か わ り を 考 え る 。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
15	ま と め ・ 地 域 文 化 論 の 内 容 を 総 括 し、議 論 を 深 め る 。					事前：これまでのノート復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション —多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 中 に 課 す 小 レ ポ ー ト (40%)、及 び 期 末 レ ポ ー ト (60%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
外 国 人 と 関 わ る 機 会 が 増 え て い る 中 で 起 き て い る 身 近 な 国 際 問 題 に つ い て、主 体 的 に 考 え る 習 慣 を 身 に つ け て 下 さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 I (Regional Cultures I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。</p> <p>2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 の 説 明 ◇地域文化論 I の全体像を概観する。					事前：教本 pp.1~3精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。					事前：教本 pp.3~9精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史~中国少数民族の生活を知る。					事前：教本 pp.236~242精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	文 化 ① せめぎ合いの場としての文化~文明の衝突を理解する。					事前：教本 pp.11~16精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	文 化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。					事前：教本 pp.16~19精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ① コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 と 寛 容 性 の 理 解 を 深 め る 。					事前：教本 pp.19~24精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ② 想 像 / 創 造 す る 力 の 可 能 性 を と も に 考 え る 。					事前：教本 pp.24~31精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	言 語 ① 英 語 帝 国 主 義 ~ 日 本 人 は な ぜ 英 語 が 話 せ な い の か 。					事前：教本 pp.108~117精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	言 語 ② 国 家 と 標 準 語 ・ 方 言 と の 関 係 を 考 え る 。					事前：教本 pp.117~134精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	非 言 語 ① 非 言 語 メ ッ セ ー ジ と ス テ レ オ タ イ プ の 関 係 を 考 え る 。					事前：教本 pp.135~144精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	非 言 語 ② 沈 黙 の 意 味 ~ 日 本 人 と 以 心 伝 心 と の 関 係 を 考 え る 。					事前：教本 pp.144~152精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
12	時 間 ・ 空 間 - 記 憶 と 忘 却 と の 関 係 性 に つ い て、東 日 本 大 震 災 を 基 に 議 論 を 深 め る 。					事前：教本 pp.152~157精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
13	発 展 学 習 ① 生 物 多 様 性 と 文 化 と の か か わ り を 考 え る 。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
14	発 展 学 習 ② 建 築 と 文 化 と の か か わ り を 考 え る 。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
15	ま と め ・ 地 域 文 化 論 I の 内 容 を 総 括 し、議 論 を 深 め る 。					事前：これまでのノート復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション —多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 中 に 課 す 小 レ ポ ー ト (40%)、及 び 期 末 レ ポ ー ト (60%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
外 国 人 と 関 わ る 機 会 が 増 え て い る 中 で 起 き て い る 身 近 な 国 際 問 題 に つ い て、主 体 的 に 考 え る 習 慣 を 身 に つ け て 下 さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 I (Regional Cultures I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 克								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 多様な地域文化の捉え方を理解し、様々な地域文化の構成要素である文化資源の保存と活用事例を学んでいく。その背景にある国や地方自治体の取り組みや、保存、活用のための法律等を理解する。実際に皆さんが住む地域の文化資源をどのようにリストアップするか学び、活用方法を自分たちで考える。地域文化の保護と活用、活性化の手段について学ぶ。									
授 業 目 標 : 地域文化の発見とその発信について基礎的な方法を身につける。 地域文化の多様性を学び、ベースとなる文化資源を掘り起こし活性化させる事で、観光資源としても有効であることを理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。地域文化論を学ぶことの意義				事前：地域、文化の意味を調べる 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 アンケート(20分)	
2	地域、文化の捉え方。地域文化の構成要素である伝統文化、歴史、民俗、景観等と文化資源について				事前：地域文化とは何か、自分で考える 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
3	国、地方自治体の地域文化活性化の方針と政策				事前：居住する自治体のHPを検索する。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
4	地域文化の保存と活性化① 重要伝統的建造物群と文化的景観について				事前：授業タイトルの用語を調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
5	地域文化の保存と活性化② 文化芸術振興基本法と地方自治体の取り組み				事前：文化芸術振興法について調べる 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
6	地域の文化資源の発見とリスト化①。それぞれの住む地域での文化資源の発見とリスト化の方法を学ぶ				事前：自分の住む地域の広報物を収集 事後：発表のための調査と資料作成			講義(50分)、 演習(40分)	
7	地域文化の保存と活性化③ 都市の地域文化と創造都市論による街おこし				事前：創造都市論とは何か調べる 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
8	地域文化と企業 地域文化と地方の企業との関係について事例を見ながら解説				事前：地方企業のCSR等を検索する。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
9	地域の文化資源の発見とリスト化②。学生による発表とディスカッション				事前：資料作成、発表準備 事後：配布資料の内容確認			演習(90分)	
10	様々な地域文化① 日本の地域文化 山村、漁村、島嶼部				事前：伊豆諸島の位置と現状を検索 事後：配布資料の内容確認			講義(30分)、 ディスカッション(60分)、	
11	地域文化の価値評価。文化資源としての価値評価。そして観光資源としての評価				事前：文化資源、観光資源の関係を調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
12	地域における様々な文化資源の活用と観光 遺跡、史跡、名勝。人、組織、史跡など				事前：観光における文化資源の活用を検索 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
13	様々な地域文化② 世界の地域文化と特性 風土と住居、生活文化。各地の事例・オランダ、台湾等				事前：オランダと台湾について検索する。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 小レポート作成(20分)	
14	地域文化の情報発信。情報発信の具体的な方法を学び、その必要性について理解する				事前：居住する地域の広報戦略を考える。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
15	まとめ 授業全体を振り返り、学生の意見や質問を受けて評論。				事前：授業全体を振り返る。 事後：配布資料の内容確認			講義(45分)、 ディスカッション(45分)	
教 本 : 特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。					参 考 文 献 : その都度提示します。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題します。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 II (Regional Cultures II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	地 域 文 化 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。</p> <p>2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 の 説 明 ◇地域文化論IIの全体像を概観する。					事前：シラバス精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
2	異空間としてのメディア ① 現代の映像メディアと文化とのかかわりを考える。					事前：教本 pp.83～95精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
3	異空間としてのメディア ② メディアと権力～メディアが世界を変えるのだろうか。					事前：教本 pp.95～108精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
4	メディアと文化 ① グローバル社会とメディア文化について検討する。					事前：教本 pp.37～50精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
5	メディアと文化 ② 戦争の記憶、記憶の戦争について理解を深める。					事前：教本 pp.50～59精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
6	異文化接触 ① 「カルチャーショック」と適応について事例検討する。					事前：教本 pp.61～90精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
7	異文化接触 ② アイデンティティと「他者」～自分探しの意味を考える。					事前：教本 pp.90～108精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
8	文化のポリティクス ① 現実はいくらつくられる～アフリカと貧困・開発問題を知る。					事前：教本 pp.159～169精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
9	グローバリゼーションの行方 ① グローバル化と格差社会～貨幣と文化の関係を知る。					事前：教本 pp.181～188精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
10	グローバリゼーションの行方 ② 画一化されない食文化とはどのようなものか考える。					事前：教本 pp.189～192精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
11	グローバリゼーションの行方 ③ オルタナティブな世界の構築に向けて何が出来るか。					事前：教本 pp.192～205精読 事後：まとめノートの作成		報告60分、討論30分	
12	研究発表1 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告60分、討論30分	
13	研究発表2 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告60分、討論30分	
14	研究発表3 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告60分、討論30分	
15	まとめ ・地域文化論IIの総括とともに議論を深める。					事前：これまでの復習 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション —多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 中 の 小 レ ポ ー ト (40%) 及 び 期 末 試 験 (60%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
外 国 人 と 関 わ る 機 会 が 増 え て い る 中 で 起 き て い る 身 近 な 国 際 問 題 に つ い て、主 体 的 に 考 え る 習 慣 を 身 に つ け て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	着地型・発地型観光論 I (Alternative Tourism and Mass Tourism I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 映像でイメージを掴み、着地型観光の特性を理解した上でメリットとデメリットを討議。									
授業目標： 着地型観光の特性を活かした観光プランが作成できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 90分	
2	地域はなぜ観光に向かうのか：観光による地域おこしについて考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
3	着地型観光と地域資源：地域のオンリーワンの観光資源を探し出し、ブラッシュアップし、発表する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
4	着地型観光の事業主体：地域の観光の運営主体は誰かについて考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
5	着地型観光の商品企画：実際に商品企画をしてみて、行程、販売価格、販売対象などを考え、発表する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
6	着地型観光の流通・販売：地域の観光資源をどのように販売したら良いか考え、発表する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
7	着地型観光における住民の役割：観光による地域振興における住民の果たす役割について考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
8	体験交流型観光：体験型観光の重要性について考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
9	ニューツーリズム開発：持続可能な観光について考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
10	エコツーリズム：エゴツーリズムに変わってしまわないようにする方策を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
11	放射線の効用：放射線のホルミシスについて考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
12	温泉文化：体に良い温泉、体に悪い温泉を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
13	嗜好品文化：世界各国の嗜好品について考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
14	食の安心・安全：危険な食とは何かについて考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
15	ディズニーランド：ディズニーランドのリピーターが多い理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、討議 20分	
教本： プリントを配布する					参考文献： 尾家建生他著「これでわかる着地型観光」田畑書店 ￥1,500+税 浜田篤郎著「伝説の海外旅行」田畑書店 ￥1,500+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： 楽しくなければ観光は学べない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	着 地 型 ・ 発 地 型 観 光 論 II (Alternative Tourism and Mass Tourism II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	着 地 型 ・ 発 地 型 観 光 論 I を 同 時 履 修 か、過 去 に 履 修 し た こ と が あ る。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 映 像 に よ り イ メ ー ジ を 掴 み、発 地 型 観 光 の 多 様 な 形 態 を 学 び、そ の メ リ ッ ト と デ メ リ ッ ト を 討 議 す る。									
授 業 目 標： 発 地 型 観 光 の 特 性 を 活 か し た 観 光 プ ラ ン が 作 成 で き る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	海 外 旅 行 の 基 礎 (I)：3 レ タ ー コ ー ド に よ り、航 空 会 社 や 都 市 名 を 表 示 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
2	海 外 旅 行 の 基 礎 (II)：時 差 や 国 際 便 の 航 空 機 の 飛 行 時 間 の 計 算 方 法 を 理 解 し、問 題 を 解 く。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
3	食 旅：安 全 ・ 安 心 の 食、危 険 な 食、地 産 地 消 な ど を 考 察 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
4	祭 旅：祭 り に よ る 町 お こ し を 考 え、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
5	産 業 観 光：産 業 観 光 を 活 用 し た 地 域 振 興 の 方 法 を 考 え、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
6	ス ポ ー ツ ・ ヘ ル ス ・ ツ ー リ ズ ム：ス ポ ー ツ を 活 用 し た 観 光 や 健 康 づ くり を 考 え、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
7	メ デ ィ カ ル ・ ツ ー リ ズ ム：医 療 を 目 的 と し た 観 光 振 興 の 是 非 に つ い て 考 察 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
8	肉 食 文 化：肉 食 文 化 と 穀 物 文 化 を 比 較 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
9	航 空 機 の な ぞ：ジ ェ ッ ト 燃 料 と は 何 か、ジ ャ ン ボ ジ ェ ッ ト 機 は な ぜ、姿 を 消 し た の か な ど に つ い て 考 え、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
10	カ ジ ノ ミ ク ス：総 合 レ ジ ャ ー 施 設 建 設 に 伴 う メ リ ッ ト、デ メ リ ッ ト を 考 察 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
11	ホ テ ル 利 用 法：国 際 ホ テ ル の 利 用 方 法 を 考 え、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
12	エ ア ラ イ ン ・ ク ラ イ シ ス：航 空 会 社 経 営 環 境 の 変 化 に 伴 う 営 業 戦 略 の 変 化 を 考 察 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
13	旅 行 の 健 康 管 理：旅 行 に 伴 う 体 調 の 変 化 と 病 を 考 察 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
14	海 外 旅 行 犯 罪：海 外 旅 行 で 遭 遇 す る 犯 罪 と 被 害 に 遭 わ ない た め の 方 策 を 考 え、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
15	麻 薬 文 化：麻 薬 に 対 す る 厳 罰 国 と 容 認 国 の 考 え 方 の 違 い を 考 察 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
教 本： プ リ ン ト を 配 布 す る。					参 考 文 献： 尾 家 建 生 他 著 「こ れ で わ か る 着 地 型 観 光」 田 畑 書 店 ￥1,500 + 税 浜 田 篤 郎 著 「伝 説 の 海 外 旅 行」 田 畑 書 店 ￥1,500 + 税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 (授 業 参 画 度、小 テ ス ト 等) (40%)、定 期 試 験 (60%) 等									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 楽 し く な け れ ば 観 光 は 学 べ ない。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	中 級 簿 記 I (Intermediate Bookkeeping I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	桑 原 常 明								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 原 理 I ・ II							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 中 級 簿 記 で は、簿 記 原 理 I ・ II に 続 き、簿 記 の 基 本 的 な 知 識 を 理 解 し た う え で、日 商 簿 記 2 級 レ ベ ル の 商 業 簿 記 の 知 識 ・ 技 術 に つ い て 授 業 を 行 う。そ の た め、簿 記 原 理 I ・ II を 履 修 済 み で あ る こ と が 望 ま し い。									
授 業 目 標 : 日 商 簿 記 2 級 レ ベ ル の 商 業 簿 記 の 知 識 ・ 技 術 を 習 得 す る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿 記 一 巡 の 手 続 き の 復 習 簿 記 原 理 I ・ II の 復 習 を 問 題 演 習 と お し て 行 う。					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
2	現 金 預 金 基 本 的 な 仕 訳 を 含 め、銀 行 勘 定 調 整 表 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
3	手 形 に か か る 処 理 手 形 の 裏 書 ・ 割 引、更 改、不 渡 り 等 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
4	有 価 証 券 に か か る 処 理 有 価 証 券 の 分 類、評 価 等 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
5	債 務 の 保 証 と 保 険 金 の 処 理 第 4 回 の 復 習 を 含 め、債 務 の 保 証、保 険 金 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
6	商 品 売 買 (3 分 法) と 棚 卸 減 耗 損 ・ 商 品 評 価 損 棚 卸 減 耗 損 と 商 品 評 価 損 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
7	固 定 資 産 に か か る 処 理 固 定 資 産 の 取 得、売 却 等、減 価 償 却 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
8	引 当 金 に か か る 処 理 引 当 金 の 種 類 と 設 定 等 の 処 理 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
9	収 益 ・ 費 用 に か か る 処 理 収 益 と 費 用 の 種 類 と 収 益 認 識 基 準 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
10	純 資 産 に か か る 処 理 純 資 産 の 種 類 と 準 備 金 等 の 処 理 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
11	税 金 の 処 理 法 人 税 と 消 費 税 の 処 理 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
12	小 括 第 11 回 ま で の 内 容 に つ い て 理 解 度 を み る。					事 前 : 第 11 回 ま で の 復 習 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		問 題 演 習 90 分	
13	問 題 演 習 1 仕 訳 の 徹 底 の た め、第 2 回 か ら 第 5 回 ま で の 問 題 演 習 を 行 う。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
14	問 題 演 習 2 (第 7 回 ま で の 復 習) 第 13 回 に つ づ き、第 8 回 ま で の 復 習 と し て 問 題 演 習 を 行 う。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
15	問 題 演 習 3 第 14 回 に つ づ き、第 11 回 ま で の 復 習 と し て 問 題 演 習 を 行 う。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
教 本 : 渡 辺 裕 巨 他 『検 定 簿 記 講 義 2 級 商 業 簿 記』、中 央 経 済 社。 渡 辺 裕 巨 他 『検 定 簿 記 ワ ー ク ブ ッ ク 2 級 商 業 簿 記』、中 央 経 済 社。					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (80%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 必 ず 電 卓 を 用 意 す る こ と (ス マ ホ な ど の 電 卓 は 認 め な い)。日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら な い こ と。授 業 妨 害 に な る こ と を し な い こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	中 級 簿 記 Ⅱ (Intermediate Bookkeeping Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	桑 原 常 明								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 原 理 Ⅰ ・ Ⅱ 中 級 簿 記 Ⅰ							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 中 級 簿 記 Ⅱ では、簿 記 原 理 Ⅰ ・ Ⅱ に 続 き、簿 記 の 基 本 的 な 知 識 を 理 解 し た う え で、日 商 簿 記 2 級 レベルの商 業 簿 記 の 知 識 ・ 技 術 に つ い て 授 業 を 行 う。そ の た め、簿 記 原 理 Ⅰ ・ Ⅱ を 履 修 済 み で あ る こ と が 望 ま し い。ま た、中 級 簿 記 Ⅰ の つ づ き の 科 目 で あ る た め、中 級 簿 記 Ⅰ も 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い。									
授 業 目 標 : 日 商 簿 記 2 級 レベルの商 業 簿 記 の 知 識 ・ 技 術 を 習 得 す る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	中 級 簿 記 Ⅰ の 復 習 中 級 簿 記 Ⅰ の 復 習 を 問 題 演 習 を と お し て お こ な う。					事 前 : 中 級 簿 記 Ⅰ の 復 習 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
2	リ ー ス 会 計 リ ー ス 取 引 の 処 理 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
3	外 貨 建 取 引 外 貨 建 取 引 の 換 算 と 二 取 引 基 準 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
4	税 効 果 会 計 課 税 所 得 と 税 効 果 会 計 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
5	小 括 第 4 回 ま で の 内 容 に つ い て 理 解 度 を み る。					事 前 : 第 4 回 ま で の 復 習 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		問 題 演 習 90 分	
6	決 算 1 (決 算 整 理 後 残 高 試 算 表 の 作 成) 決 算 整 理 後 残 高 試 算 表 の 作 成 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
7	決 算 2 (精 算 表 の 作 成) 第 6 回 に つ づ い て、精 算 表 の 作 成 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 前 回 問 題 演 習 の 復 習 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
8	決 算 3 (財 務 諸 表 の 作 成) 第 6 回 ・ 第 7 回 に つ づ い て、財 務 諸 表 の 作 成 を 解 説 す る。					事 前 : 前 回 問 題 演 習 の 復 習 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
9	本 支 店 会 計 1 (基 礎) 決 算 ま で の 処 理 を 理 解 し た う え で、本 支 店 会 計 を 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
10	本 支 店 会 計 2 (応 用) 第 9 回 に つ づ い て、本 支 店 会 計 の 理 解 を 深 め る。					事 前 : 前 回 問 題 演 習 の 復 習 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
11	連 結 会 計 1 (開 始 仕 訳) 連 結 財 務 諸 表 の 作 成 に 必 要 な 開 始 仕 訳 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
12	連 結 会 計 2 (連 結 精 算 表 の 作 成) 開 始 仕 訳 を 理 解 し た う え で、連 結 精 算 表 を 作 成 す る。					事 前 : 前 回 問 題 演 習 の 復 習 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
13	連 結 会 計 3 (連 結 財 務 諸 表 の 作 成) 第 12 回 に つ づ い て、連 結 財 務 諸 表 を 作 成 す る。					事 前 : 前 回 問 題 演 習 の 復 習 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
14	問 題 演 習 1 (第 8 回 ま で の 復 習) 決 算 ま で の 流 れ を 徹 底 す る た め 第 8 回 ま で の 問 題 演 習 を 行 う。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 10 分 問 題 演 習 80 分	
15	問 題 演 習 2 (第 9 回 か ら 第 13 回 ま で の 復 習) 第 14 回 に つ づ き、第 13 回 ま で の 復 習 と し て 問 題 演 習 を 行 う。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 10 分 問 題 演 習 80 分	
教 本 : 渡 辺 裕 巨 他 『検 定 簿 記 講 義 2 級 商 業 簿 記』、中 央 経 済 社。 渡 辺 裕 巨 他 『検 定 簿 記 ワ ー ク ブ ッ ク 2 級 商 業 簿 記』、中 央 経 済 社。					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (80%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 必 ず 電 卓 を 用 意 す る こ と (ス マ ホ な ど の 電 卓 は 認 め な い)。日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら な い こ と。授 業 妨 害 に な る こ と を し な い こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	中国語 I (Chinese I)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	沈 瑛									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>本講義では中国語の発音から初めて、正しい発音の仕方を身につけるようにしていきます。そして、中国語の日常会話を中心とする簡単な挨拶や会話を学びます。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>1. 中国への関心を高める。 2. 発音・文法の初歩から初めて、中国語の基礎を理解する。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション：講義の概要と中国語の学び方					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義		
2	発音					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
3	教科書第1課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
4	教科書第1課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
5	教科書第2課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
6	教科書第2課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
7	復習（ミニテスト①）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説		
8	教科書第3課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
9	教科書第4課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
10	教科書第4課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
11	教科書第5課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
12	教科書第5課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
13	教科書第6課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
14	復習（ミニテスト②）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説		
15	全体のまとめ					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義20分、ディスカッション30分、発表40分		
<p>教本： 参考文獻：</p> <p>【《改訂版》さあ、中国語を学ぼう—会話・購読—】竹島毅・趙昕著（白水社出版） なし。 税別 ¥2,400、教科書の購入が無い場合は受講を認めません。</p>										
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（10%）等で総合評価します。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>外国語の学習には基本的な文法などを理解すること、基本的な語彙を覚えるという過程があります。予習・復習を必ず行ってください。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	中国語Ⅰ (Chinese I)						科目分類	基礎科目		
担当教員	但 継紅									
履修条件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： 中国語の基礎を習得するためのクラスである。中国語を正しく発音でき、同時に正確に聞き取れるように訓練する。その上、基礎的な文法を学び、会話練習や作文などを平行して行うことを通じて中国語の基礎コミュニケーション力を高める。										
授業目標： 中国発音の基礎（ピンイン）、初級文法、簡単な日常会話（挨拶、自己紹介など）を身に付けることを目標とする。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎						○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態			
1	ガイダンス 発音①：声調				事前：シラバスを確認 事後：CDを聞き、発音練習		ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質疑応答 30分			
2	発音②：単母音 複母音				事前：CDを聞き、発音練習 事後：CDを聞き、発音練習		講義 40分、発音指導・練習 30分、個人指導 20分			
3	発音③：無気音と有気音 そり舌音				事前：CDを聞き、発音練習 事後：CDを聞き、発音練習		講義 40分、発音指導・練習 30分、個人指導 20分			
4	発音④：鼻音を伴う母音など声調変化 あいさつの言葉				事前：CDを聞き、発音練習 事後：あいさつの言葉覚える		講義 40分、発音指導・練習 30分、個人指導 20分			
5	名前の言い方 決まり文句				事前：自分の名前を調べる 事後：復習、単語覚える。		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
6	人称代詞 “是”、“吗” 疑問文 人称代名詞+“呢”など				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
7	復習・発音と会話の練習				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分			
8	中間テスト				事前：復習 事後：復習：単語文を覚える		復習 20分、中間テスト 50分、説明・質問応答 20分			
9	動詞述語文 指示代詞				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
10	“的”の省略 形容詞述語文				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
11	所有を表す“有/没有” 数詞 量詞 家族呼称				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
12	会話・練習・復習				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分			
13	文末の“了” 名詞述語文 比較文“比” 年月日の言い方				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
14	曜日の言い方 時間詞 推量の“吧”				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
15	総復習				事前：復習：単語文を覚える 事後：復習：単語文を覚える		講義（復習・説明）30分、発音・練習 30分、質問応答 30分			
教本： 『はくのせんせい』相原茂 郭雲輝 著 朝日出版社					参考文献： 授業中に適宜紹介します。					
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 外国語を習うには、楽しい気持ちを持つことがとても大事、先生とクラスのみなさんと一緒に、楽しく学びましょう。 中国語の発音は難しいのは先入観だけです。授業は、わかり易く行うことを工夫します。常に復習しながら進めます。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	中 国 語 I (Chinese I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 中国語を学ぶ上で、発音が難しいことはよく知られているが、「文法の体系がよくわからない」、「どう表現すれば正しいのか」という声もよく聞かれている。本授業はこうしたことを考慮し、できるだけ丁寧に解説する。									
授 業 目 標 : 語学力を磨き、簡単な会話でも良いので、コミュニケーション力をつけると知識を理解し、学んだ日常短文を生かしてたくさんの人と会話して、気持ちを理解し合う。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 中国語とは、中国語の特徴、学習方法					事前：なし 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
2	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) ピンイン (拼音)、発音。選択疑問語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
3	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 「是」の文					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
4	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 「的」の用法、疑問詞、疑問文					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
5	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 「所有」を表す「有」					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
6	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 指示代名詞					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
7	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 数字、日付の教え方					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
8	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 完了の表見					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
9	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 反復疑問文					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
10	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 時間量の表示方法					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
11	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 過去の経験を表す表見					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
12	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 「是・・・的」文の表見					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
13	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) しにくる、しに行くの表見					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
14	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 自己紹介文の作成					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
15	全体のまとめ					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
教 本 : 竹島金吾等 (著)『中国語ははじめの一步』白水社最新版					参 考 文 献 : 山下輝彦『中国語入門』白水社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 言 葉 は 歌 の よ う な も の で、ま ず 聞 い て、真 似 て 見 る こ と か ら 始 め る。知 的 好 奇 心 の 幅 を ち ょ っ と 広 げ て 見 て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	中国語Ⅰ (Chinese I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： この講義では中国語の発音と基礎文法を教授する。まず、学生一人一人に声を出して発音を繰り返し練習させる。それから文法をやさしい会話文形式で理解したうえ、身に付けさせる。そして、中国語の表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上をはかる。また、語学学習を通して、中国の文化、社会事情を知り、中国に対する理解を深めることもはかる。									
授業目標： 中国語の発音が分かるようになる。簡単な会話ができるようにする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 中国語とは、中国語の特徴 発音①：声調					事前：なし 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
2	発音②：単母音と複母音					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
3	発音③：無気音と有気音 そり舌音					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
4	発音④：鼻音-n, -ng の区別、変調					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
5	人称代名詞の単数と複数 指示代名詞の単数と複数					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
6	動詞述語文 形容詞述語文					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
7	疑問文“吗”の使い方					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
8	数字の言い方の数詞 物事の数え方の量詞					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
9	完了を表す助詞“了”の学習					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
10	肯定型＋否定型の反復疑問文					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
11	前置詞在“从”“跟”“离”“向”などの学習					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
12	時間補語					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
13	時刻、日付、曜日の言い方					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
14	助詞“过”の使用法					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
15	全体の復習をする。 テストを行う。					事前：復習 事後：復習		演習 30分 テスト 60分	
教本： 山下輝彦『中国語の入門（最新版）』白水社					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 言語は第一に音声である。もっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	中国語Ⅱ (Chinese Ⅱ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	沈 瑛									
履 修 条 件	前提科目	中国語Ⅰを履修していること。								
	その他	なし								
授業概要： 中国語は発音が大事です。中国語コミュニケーションⅠで学んだ発音を確認した後、Ⅰで学習した内容をベースに基礎的な文法を学びつつ、単語の知識を増やしていきます。大学で留学生との日常会話ができるような力を身につけていきます。										
授業目標： 1. 基礎的な文法を学習する。 2. 日常の会話力、リスニング力の習得を目指す。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション：講義の概要					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義		
2	発音					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
3	教科書第7課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
4	教科書第8課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
5	教科書第8課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
6	教科書第9課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
7	教科書第9課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
8	復習（ミニテスト①）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説		
9	教科書第10課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
10	教科書第11課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
11	教科書第11課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
12	教科書第12課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
13	教科書第12課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
14	復習（ミニテスト②）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説		
15	全体のまとめ					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義20分、ディスカッション30分、発表40分		
教本： 【改訂版】さあ、中国語を学ぼう－会話・購読－ 竹島毅・趙昕著（白水社出版） 税別 ¥2,400、教科書の購入が無い場合は受講を認めません。										
参考文献： なし。										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（10%）等で総合評価します。										
学生へのアドバイス： 単語を覚えることと共に、外国語は積極的に話すことが大事です。特に会話に力点を置いてあります。自ら考えて話すことが大切です。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	中国語Ⅱ (Chinese Ⅱ)						科目分類	基礎科目		
担当教員	但 継紅									
履修条件	前提科目	中国語Ⅰ履修済みを前提とする。								
	その他									
授業概要： 中国語Ⅰの基礎を習得した受講者のための初級クラスである。中国語を正しく発音でき、同時に正確に聞き取れるように訓練する。その上、基礎的な文法を学び、会話練習や作文などを平行して行うことを通じて中国語の基礎コミュニケーション力を高める。										
授業目標： 中国発音の基礎（ピンイン）、初級文法、簡単な日常会話（挨拶、自己紹介など）を身に着けることを目標とする。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎						○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態			
1	ガイダンス 基礎内容の復習				事前：シラバスを確認 事後：CDを聞き、発音練習		ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質疑応答 30分			
2	時刻の言い方 指示詞 特定のモノ（ヒト）+在+場所など				事前：CDを聞き、発音練習 事後：CDを聞き、発音練習		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
3	動詞+“了” 程度副詞：“挺”、“很”、“非常”				事前：CDを聞き、発音練習 事後：CDを聞き、発音練習		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
4	会話・練習・復習				事前：CDを聞き、発音練習 事後：あいさつの言葉覚える		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分			
5	“喜欢”+VP 動詞+“过”など				事前：自分の名前を調べる 事後：復習、単語覚える。		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
6	助動詞“会”、“能” 動詞の重ね型 様態補語など				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
7	復習・発音と会話の練習				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分			
8	中間テスト				事前：復習 事後：復習：単語文を覚える		復習 20分、中間テスト 50分、説明・質問応答 20分			
9	助動詞想、打算 連動文 方向補語など				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
10	反復疑問文 選択疑問文 主述述語文 身長の言い方				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
11	“跟”、“和”、“给” 結果補語など				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
12	会話・練習・復習				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分			
13	可能補語 値段の聞き方 “是～的”など				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
14	“把” 構文 動詞+“着”など				事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分			
15	総復習				事前：復習：単語文を覚える 事後：復習：単語文を覚える		講義（復習・説明）30分、発音・練習 30分、質問応答 30分			
教本： 『はくのせんせい』相原茂 郭雲輝 著 朝日出版社					参考文献： 授業中に適宜紹介します。					
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 外国語を習うには、楽しい気持ちを持つことがとても大事、先生とクラスのみなさんと一緒に、楽しく学びましょう。 中国語の発音は難しいのは先入観だけです。授業は、わかり易く行うことを工夫します。常に復習しながら進めます。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	中国語Ⅱ (Chinese II)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	仲 伯 維									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	中国語Ⅰ履修済みを前提とする。								
<p>授業概要：</p> <p>中国語を学ぶ上で、発音が難しいことはよく知られているが、「文法の体系がよくわからない」、「どう表現すれば正しいのか」という声もよく聞かれている。本授業はこうしたことを考慮し、できるだけ丁寧に解説する。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>語学力を磨き、簡単な会話でも良いので、コミュニケーション力をつけると知識を理解し、学んだ日常短文を生かしてたくさんの人と会話して、気持ちを理解し合う。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 中国語とは、中国語の特徴、学習方法					事前：なし 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
2	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） ピンイン（拼音）、発音。選択疑問語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
3	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 回数補語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
4	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 比較表現					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
5	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 能願動詞「会」、「能」					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
6	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 能願動詞「想」、「要」					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
7	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 方向補語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
8	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 結果補語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
9	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 受身					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
10	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 使役					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
11	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 二重主語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
12	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 「就」、「才」の区別					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
13	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 「有・没有」の使用					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
14	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 自己紹介文の作成					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
15	全体のまとめ					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
教本： 特になし。プリントを配布					参考文献： 山下輝彦『中国語入門』白水社 最新版					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス： 言葉は歌のようなもので、まず聞いて、真似て見ることから始める。知的好奇心の幅をちょっと広げて見てください。</p>										
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	中 国 語 II (Chinese II)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	南 春 英								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	中 国 語 I 履 修 す る こ と。							
授 業 概 要 :									
中国語 I の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。									
授 業 目 標 :									
中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 中国語とは、中国語の特徴、発音復習					事前：なし 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
2	会話文の復習、選択疑問語					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
3	回数補語、様態補語など					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
4	比較表現“比”					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
5	能願動詞“会”“能”“想”“要”など					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
6	方向補語					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
7	復習・会話練習					事前：復習 事後：復習		講義 60分 演習 30分	
8	中間テスト					事前：復習 事後：復習		テスト 90分	
9	結果補語“开”“好”など					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
10	受身文“被”					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
11	使役文“让”					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
12	“就”と“オ”の区別					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
13	“有・没有”の使用					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
14	自己紹介文の作成					事前：予習 事後：ノート整理と復習		講義 60分 演習 30分	
15	全体の復習をする。 テストを行う。					事前：復習 事後：復習		演習 30分 テスト 60分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
山下輝彦『中国語の入門 (最新版)』白水社									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
言 語 は 第 一 に 音 声 で あ る。も っ と も 大 事 な こ と は、中 国 語 の 発 音、声 調 に 十 分 に 習 熟 す る こ と で あ る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中国語コミュニケーション (Chinese Communication)						科目分類	専門科目	
担当教員	但 継紅								
履修条件	前提科目	中国語Ⅰ、Ⅱ履修済みが望ましい							
	その他								
授業概要： 基本的な文法・句型を整理しながら、平易な中国語文が正確に作れるように、会話体・文章体の両面から指導する。読む・聞く・話す・書くことの指導を段階的に進めていく。より楽しく中国語を勉強ができることで、中国語のプレゼン能力を高める。									
授業目標： 中国語の長文読解の応用力を養うことや、中国語を通して、中国の文化についての理解もより深くなることを目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	ガイダンス、基礎内容の確認				事前：シラバスを確認 事後：CDを聞き、本文朗読		ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質疑応答 30分		
2	教科書の第一課①				事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
3	教科書の第一課②				事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、ディスカッション 15分		
4	教科書の第二課①				事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
5	教科書の第二課②				事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、ディスカッション 15分		
6	復習・練習・応用会話				事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分		
7	教科書の第三課①				事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、ディスカッション 15分		
8	教科書の第三課②				事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
9	教科書の第四課①				事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、ディスカッション 15分		
10	教科書の第四課②				事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
11	復習・練習・応用会話				事前：CDを聞き、本文朗読。 事後：練習、復習		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分		
12	教科書の第五課①				事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
13	教科書の第五課②				事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
14	総復習：文法・練習				事前：わからない内容確認 事後：総復習		講義（復習・説明）30分、練習 40分、質問応答 20分		
15	総復習：リスニング・会話				事前：復習：単語文を覚える 事後：総復習		講義（復習・説明）30分、発音・練習 40分、質問応答 20分		
教本： 『楽しく学ぼう やさしい中国語』（講読編）中国語で巡る中国文化 王 武雲ほか著 郁文堂					参考文献： 授業中に適宜紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： この授業は中国語の中級内容のため、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修したら、更に高い中国語力が身に付けられる。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	中 国 文 化 研 究 A (Chinese Studies A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	但 継 紅								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
中国は、地理的に日本に近く、似たような文化を持っている反面、全く異なった自然環境、歴史、文化、生活習慣、社会も併せ持っている。そのような隣国—中国の歴史、さまざまな地域・民族の文化、人々の生活様式を知る。授業は、講義、映像資料の視聴、討論、質疑応答、発表などを組み合わせて行う									
授 業 目 標 :									
中国の全体像を知ることによって、現代中国への理解を深め、日中文化や日中関係に対する思考力を養うことを目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態		
1	ガイダンス、概要				事前：シラバスを確認 事後：配布資料を読む		ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質疑応答 30分		
2	中国の歴史、社会				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
3	日中関係史				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
4	日本に伝わった中国文化				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
5	さまざまな民族の生活				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
6	中国の食文化				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
7	中華人民共和国				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
8	映画を通して中国を知る				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 20分、映画鑑賞 70分		
9	映画鑑賞①				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		映画鑑賞 90分		
10	中国の思想				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
11	中国の宗教				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
12	現代の中国人の価値観				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
13	映画を通して中国を知る				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 40分、映画鑑賞 50分		
14	映画鑑賞②				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		映画鑑賞 90分		
15	討論、まとめ、レポート指導				事前：レポート題名決める 事後：レポート作成		まとめ 20分、ディスカッション 30分、レポート指導 40分		
教 本 :					参 考 文 献 :				
特に設定せず、各時間にプリントを配布。					授業中に適宜紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、レ ポー ト (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
出席と資料の調べ、時々資料を読むことが求められます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	中 国 文 化 研 究 B (Chinese Studies B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	但 継 紅								
履 修 条 件	前 提 科 目	「中国語研究A」の継続授業であるため、前期の受講が望ましい							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 :									
中国は、地理的に日本に近く、似たような文化を持っている反面、全く異なった自然環境、歴史、文化、生活習慣、社会も併せ持っている。そのような隣国—中国の歴史、さまざまな地域・民族の文化、人々の生活様式を前期の講義で学ぶ。後期は、受講者に自分の興味や関心のあるテーマや問題を決めてもらい、個別に調べてまとめ、発表してもらう。									
授 業 目 標 :									
中国の全体像を知ることによって、現代中国への理解を深め、日中文化や日中関係に対する思考力を養うことを目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態		
1	ガイダンス 受講者各自の発表テーマの相談・確認				事前：シラバスを確認 事後：配布資料を読む		ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質疑応答 30分		
2	受講者各自の発表テーマの相談・提出				事前：各自発表テーマを調べ 事後：各自発表テーマを調べ		説明 20分、個別指導 70分		
3	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など				事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分		
4	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など				事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分		
5	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など				事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分		
6	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など				事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分		
7	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など				事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分		
8	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など				事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分		
9	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など				事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分		
10	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など				事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分		
11	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など				事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分		
12	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など				事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分		
13	レポート指導とレポートの提出				事前：各自レポート作成 事後：各自レポート作成		レポート個別指導 90分		
14	レポート指導とレポートの提出				事前：各自レポート作成 事後：各自レポート作成		レポート個別指導 90分		
15	まとめ、レポート指導と提出				事前：各自レポート作成 事後：各自レポート作成		レポート個別指導 90分		
教 本 :					参 考 文 献 :				
特に設定せず、各時間にプリントを配布。					授業中に適宜紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、レ ポ ー ト (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
出席と資料の調べ、時々資料を読むことが求められます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	調査研究(フィールドワーク)(Fieldwork)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学関連科目							
	その他	文献読解力、アカデミックライティング技術が必要となる。授業以外に相当な時間と労力を要する。 Google Classroom 利用。							
授業概要： 「エスノグラフィック・フィールドワーク」調査法（調査法の種類と特徴、問いの設定、調査対象設定、調査計画、文献検討、先行研究分析、倫理審査、参与観察、インタビュー、フィールドノート、データ分析、報告書作成）を習得します。									
授業目標： 1. 多様な調査法と、エスノグラフィック・フィールドワーク調査法の特徴を習得する。 2. エスノグラフィーを読み、読解し、自分の調査計画にいかすことができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	量的調査、質的調査およびフィールドワーク調査の特徴、プロセスを学ぶ。					事前：高校地理を振り返る 事後：Step1を復習する		講義60分、 ディスカッション30分	
3	エスノグラフィーを読む（学術論文、市場調査）					事前：高校地理を振り返る 事後：Step1を復習する		講義60分、 グループワーク30分	
4～6	問いと対象を立ててみる。対象に応じて調査企画案を作成する。倫理審査申請書と調査協力依頼書等、必要書類作衛を学ぶ。必要書類を提出する。各自、対象に関する文献資料を収集し、発表する。調査企画とフィールドデザインする。					事前：文献資料を収集する 事後：Step1を復習する		講義60分、 ディスカッション30分	
7・8	参与観察法、インタビュー法、フィールドノート作成およびインターネットエスノグラフィーについて学び、履修者間でエクササイズをする。					事前：ノートを購入する 事後：Step2を復習する		実習	
9	調査企画をたてる					事前：関心テーマを絞る 事後：Step2を復習する		講義60分、 ディスカッション30分	
10・11	事例カード、関係図作り、概念、「K」法について学ぶ					事前：事例を読み込む 事後：Step3を復習する		実習	
12	概念関係図から、事例を再構成し、理論的テーマを確定する。設問、鍵概念、結論、章立て					事前：事例を読み込む 事後：Step3,4を復習する		講義60分、 ディスカッション30分	
13・14	エスノグラフィー（報告書）執筆					事前：報告書執筆 事後：コメントを反映する		講義60分、 プレゼンテーション30分	
15	発表、フィードバック					事前：プレゼン準備 事後：報告書修正		プレゼンテーション60分、 ディスカッション30分	
教本： 中島洋『初学者のための質的研究26の教え』医学書院、¥1,800+税					参考文献： 『フィールドワークへの挑戦』菅原和孝、世界思想社、¥2,300+税				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、調査の各段階の達成・課題提出等（30%）、報告書（50%）等で総合評価します。本授業は、大学外の方々のご協力が進めていきますので、全回、出席することが前提です。また信頼を損なう行為があった場合は単位判定の対象としません。									
学生へのアドバイス： 社会的文化的視点からの分析、文献読解力、レポート作成力を高めたい人に勧めます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 理 学 (Geography)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	南 春 英								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 地理学は系統地理学と地誌学に分かれ、系統地理学は自然地理学と人文地理学に細分化する。本授業では、系統地理学の観点から自然と人間との関わり合いと、現代世界の生活文化、地域問題の現状について学ぶ。									
授 業 目 標 : 空間スケールでの現象の多様性と相互関係性を考察する能力を習得する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：ノート整理		講義 90分	
2	地理学とは 地理学の目的と課題					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義 90分	
3	地理情報と表現方法					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義 90分	
4	地図の概要と地形図の読図					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義 90分	
5	地球の姿と成り立ち					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義 90分	
6	世界の地形① 地球規模の大地形					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義 90分	
7	世界の地形② 河川と海岸の小地形					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義 90分	
8	世界の気候 気候の成り立ちと世界の気候区分					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義 90分	
9	自然災害と環境問題					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義 90分	
10	資源と産業—工業の立地変化					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義 90分	
11	世界の人口—世界の人口問題					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義 90分	
12	生活文化・民俗地理—世界の食肉文化・生活と環境					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義 90分	
13	民族・移民の地理—移民と外国人労働者					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義 90分	
14	不平等の地理—地域間の経済格差					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義 90分	
15	まとめ					事前：前回のノート整理 事後：地域理解ができたか		講義 90分	
教 本 : なし。必要に応じてプリントを配布します。					参 考 文 献 : 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 欠席と遅刻をしないこと。様々なことに関心も持ってください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 理 情 報 シ ス テ ム (Geographical Information Systems)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に ない。							
	そ の 他	ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と。							
授 業 概 要 :									
この授業では、地理情報システム (GIS) の基礎知識を学び、身の回りの事例やオープンデータを用いて、実際に GIS を活用する方法を習得することを目的とします。具体的には、地図と GIS の関係を理解し、地図データと地図上の事象、現象の属性データを統合してデータベース化し、それを検索、分析、可視化することを目指します。そのために、GIS の基本操作、空間分析の方法を身に付けます。									
授 業 目 標 :									
① GIS とは何か、活用事例に関連付けて説明できる。 ② GIS のデータモデル、座標系について説明できる。 ③ GIS のオープンデータを活用することができる。 ④ GIS の基本操作ができる。 ⑤ GIS を使用して、空間分析ができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	授 業 の 概 要 と 目 的、進 め 方、評 価 方 法 等 に つ い て 説 明 す る。GIS と は 何 か、GIS の 活 用 事 例 を 紹 介 す る。				事 前：シラバスを読む 事 後：ミニッツペーパー			アイスブレイク (10分) 講 義 (80分)	
2	GIS の デ ー タ モ デ ル ベ ク タ ー 形 式 の デ ー タ モ デ ル と ラ ス タ 形 式 の デ ー タ モ デ ル に つ い て 学 ぶ。				事 前：GIS の デ ー タ モ デ ル に つ い て 下 調 べ 事 後：ミニッツペーパー			講 義 (90分)	
3	GIS と 座 標 系 座 標 系 と 何 か、地 図 と GIS の 座 標 系 に つ い て 学 ぶ。				事 前：地 図 と GIS の 座 標 系 に つ い て 下 調 べ 事 後：ミニッツペーパー			講 義 (90分)	
4	GIS の オ ー プ ン デ ー タ (1) 基 盤 地 図 情 報 の ダ ウ ン ロ ー ド と 地 図 化 に つ い て 学 ぶ。				事 前：国 土 地 理 院 Web サ イ ト で 基 盤 地 図 情 報 の 下 調 べ 事 後：指 定 す る 地 域 の 基 盤 地 図 情 報 を 地 図 化 す る			講 義 (45分) 演 習 (45分)	
5	GIS の オ ー プ ン デ ー タ (2) 国 勢 調 査 デ ー タ の ダ ウ ン ロ ー ド と 地 図 化 に つ い て 学 ぶ。				事 前：総 務 省 Web サ イ ト で 国 勢 調 査 デ ー タ の 下 調 べ 事 後：指 定 す る 地 域 の 国 勢 調 査 デ ー タ を 地 図 化 す る			講 義 (45分) 演 習 (45分)	
6	GIS の オ ー プ ン デ ー タ (3) 国 土 数 値 情 報 の ダ ウ ン ロ ー ド と 地 図 化 に つ い て 学 ぶ。				事 前：国 土 交 通 省 Web サ イ ト で 国 土 数 値 情 報 の 下 調 べ 事 後：指 定 す る 地 域 の 国 土 数 値 情 報 を 地 図 化 す る			講 義 (45分) 演 習 (45分)	
7	GIS の 基 本 操 作 (1) プ ロ ジ ェ ク ト の 作 成 と デ ー タ の 入 出 力 に つ い て 学 ぶ。				事 前：指 定 す る GIS に つ い て Web サ イ ト で 下 調 べ 事 後：基 本 操 作 の 復 習			講 義 (45分) 演 習 (45分)	
8	GIS の 基 本 操 作 (2) レ イ ヤ の 編 集 に つ い て 学 ぶ。				事 前：レ イ ヤ に つ い て 下 調 べ 事 後：基 本 操 作 の 復 習			講 義 (45分) 演 習 (45分)	
9	GIS の 基 本 操 作 (3) 地 図 と 属 性 デ ー タ の 結 合、属 性 検 索 に つ い て 学 ぶ。				事 前：地 図 と 属 性 デ ー タ の 結 合 に つ い て 下 調 べ 事 後：基 本 操 作 の 復 習			講 義 (45分) 演 習 (45分)	
10	GIS の 基 本 操 作 (4) 属 性 テ ー ブ ル 編 集 と フィ ー ル ド 演 算 に つ い て 学 ぶ。				事 前：属 性 テ ー ブ ル と フィ ー ル ド 演 算 に つ い て 下 調 べ 事 後：基 本 操 作 の 復 習			講 義 (45分) 演 習 (45分)	
11	GIS の 基 本 操 作 (5) パ ッ フ ァ の 作 成 と オ ー バ ー レ イ に つ い て 学 ぶ。				事 前：パ ッ フ ァ と オ ー バ ー レ イ に つ い て 下 調 べ 事 後：基 本 操 作 の 復 習			講 義 (45分) 演 習 (45分)	
12	GIS の 課 題 研 究：課 題 デ ー タ の ダ ウ ン ロ ー ド と 編 集 を 行 う。				事 前：課 題 デ ー タ の テ ー マ を 設 定 す る 事 後：課 題 研 究 を 行 う			講 義 (30分) 演 習 (60分)	
13	GIS の 課 題 研 究：空 間 分 析 を 行 う。				事 前： 事 後：課 題 研 究 を 行 う			講 義 (30分) 演 習 (60分)	
14	GIS の 課 題 研 究：空 間 分 析 の ま と め、レ ポ ー ト の 作 成 を 行 う。				事 前： 事 後：レ ポ ー ト を 完 成 さ せ、期 限 ま で に 提 出 す る			講 義 (30分) 演 習 (60分)	
15	ま と め と 学 び の 振 り 返 り を 行 う。 GIS が 支 え る 近 未 来 の 社 会 に つ い て 考 え る。				事 前：学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ を 整 理 す る 事 後：学 び の 振 り 返 り			講 義 (60分) グ ル ー プ ワ ー ク (30分)	
教 本：授 業 内 で 指 示 す る。									
参 考 文 献：羽 田 康 祐 (2021) 『地 図 リ テ ラ シ ー 入 門—地 図 の 正 し い 読 み 方 ・ 描 き 方 が わ か る』ベ レ 出 版 ISBN：978-4860646660 橋 本 雄 一 (2019) 『五 訂 版 GIS と 地 理 空 間 情 報：ArcGIS 10.7 と ArcGIS Pro 2.3 の 活 用』古 今 書 院 ISBN：978-4772242134 そ の 他、必 要 に 応 じ て 授 業 内 で 紹 介 す る。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ (ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー、事 前 事 後 課 題、振 り 返 り 等)：60%、課 題 研 究：40% で 総 合 評 価 す る。 ※学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ は、ル ー ブ リ ッ ク (評 価 基 準) に よ る 自 己 評 価 を 含 む。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： ス マ ー ト フ ォ ン や イ ン タ ー ネ ッ ト 上 に、地 図 が 溢 れ て い る 時 代、そ れ を 支 え る GIS の 仕 組 み を 理 解 し て、地 図 と 情 報 を 適 切 に 活 用 す る こ と が で き る 力 は、今 を 生 き る た め に 求 め ら れ る 力 と い え ま す。こ の 授 業 で は、実 際 に GIS を 使 用 し た 実 習 が 主 と な り ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	データサイエンス (Data Science)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井 上 明 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： 近年、ビッグデータやデータサイエンティストというキーワードが着目されているが、その本質はデータ分析技術だけでなく、ビジネス課題における意思決定にいかにも有効に活用することができるかが重要なポイントである。本講義では、データサイエンスに関連する技術動向について学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、データ分析に必要な基礎技術とその活用法を学ぶ。									
授業目標： どのようなデータをどのような手法により処理・分析し、得られた結果をどのように解釈するか、という一連の流れを理解する。基本的な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、データサイエンス関連技術動向、データサイエンティストとは					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	データ分析の基礎Ⅰ 可視化によるデータ分析					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
3	データ分析の基礎Ⅱ クロス集計によるデータ分析					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
4	単回帰分析					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
5	重回帰分析Ⅰ					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
6	重回帰分析Ⅱ					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
7	数量化理論Ⅰ類 -Ⅰ					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
8	複数の手法を組み合わせた分析 重回帰&数量化理論Ⅰ類混合モデル					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
9	判別分析					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
10	数量化理論Ⅱ類					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
11	機械学習Ⅰ					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
12	機械学習Ⅱ					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
13	コンジョイント分析					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
14	実データ演習Ⅰ 公開データの入手、分析、評価、考察					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
15	実データ演習Ⅱ 公開データの入手、分析、評価、考察					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
教本： 指定しない					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	データ処理 (Data Processing)						科目分類	基礎科目 (メディア以外) 専門科目 (メディア)	
担 当 教 員									
履 修 条 件	前提科目	情報基礎/情報処理概論							
	その他	※「学生へのアドバイス」参照							
授業概要： 主に表計算ソフトを利用して、コンピュータにおけるデータ処理・分析について学習する。									
授業目標： 表計算ソフトの操作に習熟し、表やグラフのデータ表現や関数等を利用したデータ処理・分析の手法を身につけることが本講義の目標となる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	
1	シラバスの確認、データの種類とデータ処理・分析の概説				事前：シラバスを読む 事後：PC操作の復習			講義 60分、演習 30分	
2	表計算ソフトの基本操作と作表の基礎				事前：ファイル形式について調べる 事後：作表課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
3	数式と基本関数の利用				事前：基本関数について調べる 事後：関数利用課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
4	数式と絶対/相対参照				事前：参照について調べる 事後：複合参照課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
5	グラフの作成				事前：グラフの種類について調べる 事後：グラフ課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
6	表示形式の設定				事前：表示形式について調べる 事後：ユーザ定義表示形式課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
7	複数シートの操作				事前：シートの操作について調べる 事後：複数シート課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
8	高度な関数の利用				事前：様々な関数について調べる 事後：関数課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
9	条件付き書式				事前：条件付き書式について調べる 事後：条件付き書式課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
10	データベースの利用				事前：データベースについて調べる 事後：データベース課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
11	ピボットテーブル				事前：ピボットテーブルについて調べる 事後：ピボットテーブル課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
12	高度なグラフの作成				事前：複合グラフについて調べる 事後：高度なグラフ課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
13	マクロの利用				事前：マクロについて調べる 事後：マクロ課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
14	外部データの利用				事前：データの取り込みについて調べる 事後：外部データ課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
15	まとめ、総合練習問題				事前：総合練習問題を練習する 事後：総合練習課題を完成する			講義 60分、演習 30分	
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内での演習及び小テスト (50%)、提出課題 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： やむを得ず欠席した場合は、必ず担当の先生に指示を仰ぐようにして下さい。3304、2207以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となります。また、USBメモリ等、ファイルを保存する手段を各自用意して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 と 演 習
授 業 科 目 (英 文)	データ処理入門 (Introduction to Data Processing)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菊地 創								
履 修 条 件	前 提 科 目	心理統計法を履修していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 心理学研究で使用される基本的な統計分析手法を表計算ソフト (MS Excel) などを用いて学ぶ。統計学の理論に関する学習だけでなくサンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。また、分析結果の意味を正しく理解し、その結果を的確にまとめるトレーニングを行う。									
授業目標： ①表計算ソフトなどを用いて基礎的な統計分析を行うことができるようになる。 ②分析結果の意味を正しく読み取ることができるようになる。 ③分析結果のまとめ方、心理学研究論文での記載方法を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	心理学で使用するデータや尺度について学ぶ。					事前：シラバスの確認 事後：練習問題の復習		講義 90分	
2	記述統計量について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：心理統計法の復習 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
3	欠損値処理や天井効果・床効果について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
4	図表の作成について学ぶ。サンプルデータなどを用いて、実際に図表を作成する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
5	相関分析について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
6	推定や信頼区間について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
7	分散の等質性の検定について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
8	対応のないt検定について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
9	Welch 検定について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
10	対応のあるt検定について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
11	独立性の検定について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
12	3つ以上の平均値の差の検定 (1要因の対応なし) について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
13	3つ以上の平均値の差の検定 (1要因の対応あり) について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
14	回帰分析について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
15	理解度の確認					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義 45分 実習 45分	
教本： 授業プリントと関連資料の提供。					参考文献： 「数学が苦手でもわかる心理統計法入門」芝田征司 (著) サイエンス社				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 受講の態度やマナーに留意すること。講義では表計算ソフト (MS Excel) のインストールされたパソコンを必ず持参すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	データモデリング (Data Modeling)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	山本 美紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に ない。							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること。							
授業概要： この授業では、データモデリングの枠組みについて学び、社会にあふれている膨大なデータを一定のルールに基づいて整理し、価値ある情報にするためのデータモデリングの手法を身に付けます。また、データベースを操作するためのSQLの基礎を学び、実際に、データモデリングによってデータベースを構築することを目指します。									
授業目標： ①データベースモデリングとは何か、システム開発のプロセスに対応づけて説明できる。 ②概念データモデリング、論理データモデリング、物理データモデリングで用いる手法について説明できる。 ③SQLを用いてデータベースの基本操作ができる。 ④社会のある事象に注目して、実際にデータモデリングを行い、自分の知りたい情報を得ることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 データベースモデリングとは何か、について学ぶ。					事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー		アイスブレイク（10分） 講義（80分）	
2	データベースとリレーショナルデータベースについて学ぶ。					事前：DBの種類を調べる 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
3	概念データモデリング (1) エンティティと属性について学ぶ。					事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
4	概念データモデリング (2) ERモデルについて学ぶ。					事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
5	論理データモデリング (1) 正規化について学ぶ。					事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
6	論理データモデリング (2) テーブルとビューについて学ぶ。					事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
7	物理データモデリング (1) 非正規化について学ぶ。					事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー		講義・演習（60分） 小テスト（30分）	
8	物理データモデリング (2) インデックスと領域について学ぶ。					事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
9	SQLによる演習 (1)① データベースの作成と削除、② テーブルの作成と削除、更新について学ぶ。					事前：SQLについて下調べ 事後：SQLの演習問題		講義（45分） 演習（45分）	
10	SQLによる演習 (2)① 主キーと外部キーの制約、② レコードの追加と削除、更新について学ぶ。					事前：配布資料を読む 事後：SQLの演習問題		講義（45分） 演習（45分）	
11	SQLによる演習 (3) SELECT文の基本構文について学ぶ。					事前：配布資料を読む 事後：SQLの演習問題		講義（45分） 演習（45分）	
12	期末課題：概念データモデリングを行う。					事前：配布資料を読む 事後：期末課題		講義（30分） 演習（60分）	
13	期末課題：論理データモデリングを行う。					事前：配布資料を読む 事後：期末課題		講義（30分） 演習（60分）	
14	期末課題：物理データモデリングを行う。					事前：配布資料を読む 事後：期末課題を完成させ、期限までに提出する		講義（30分） 演習（60分）	
15	まとめと学びの振り返りを行う。 データベースとプログラムを連携した事例について紹介する。					事前：学習ポートフォリオ整理 事後：学びの振り返り		講義（60分） グループワーク（30分）	
教本： 指定しない。 必要に応じて授業内で資料等を配布する。					参考文献： 授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 学習ポートフォリオ（ミニッツペーパー、演習問題、振り返り等）：60%、小テスト：10%、期末課題：30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック（評価基準）による自己評価を含む。									
学生へのアドバイス： この授業では、データモデリングの基礎的な知識を学ぶだけでなく、積極的に演習を行って、データモデリングのセンスを身に付けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	デジタル認証技術基礎 (Basic Digital Authentication Technology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論							
	その他	なし							
授業概要： 現代社会においてデジタル認証技術は、情報システムや情報資産を維持・管理するために、さまざまな危険・脅威から保護するか定め運用・管理する一連のプロセスのことを言う。この授業では情報セキュリティ対策を実施するうえで、どのような情報をどのように保護していくかを定めた基本方針のことを学習しながらデジタル認証技術基礎を習得する。									
授業目標： 1. インターネットに代表されるデジタル認証技術、情報通信技術の現状を理解し、情報化社会における情報セキュリティ、知的財産権、個人情報保護等について幅広く学ぶ。2. デジタル認証処理の基礎技術を学び、その応用力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	ガイダンス、授業科目名であるデジタル認証について説明し、確認をする。				事前：教科書の準備をする。 事後：認証関連書を調べる。			講義 80分、ディスカッション 10分	
2	デジタル認証技術において数学的準備である情報（数値データ）のデジタル化を説明し、数値データ表現の課題を行う。				事前：n 進数について調べる。 事後：数値データ化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 20分、課題 20分	
3	デジタル認証技術において数学的準備である情報（文字データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前：文字データを調べる。 事後：文字データ化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
4	数値、文字データのデジタル化の課題についてディスカッションを行い、発表を行う。				事前：バイナリデータを調べる。 事後：バイナリデータを纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
5	デジタル認証技術において数学的準備である情報（画像データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前：画像データを調べる。 事後：画像データ化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
6	デジタル認証技術において数学的準備である情報（音声データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前：音声データを調べる。 事後：音声データ化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
7	画像、音声データのデジタル化の課題についてディスカッションを行い、発表を行う。				事前：RGB, CMYKを調べる。 事後：RGB, CMYKを纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
8	情報セキュリティにおけるデジタル認証技術の概要、動向、及び次世代デジタル認証技術を説明し、課題を行う。				事前：認証技術について調べる。 事後：デジタル認証技術の概要、動向を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
9	デジタル認証技術であるメッセージ認証子（MAC）について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：MACについて調べる。 事後：MACを纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
10	デジタル認証技術であるハッシュ（Hash）について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：ハッシュ値を調べる。 事後：ハッシュ値を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
11	デジタル認証技術であるデジタル署名について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：デジタル署名を調べる。 事後：デジタル署名を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
12	デジタル認証技術である多要素認証について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：多要素認証を調べる。 事後：多要素認証を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
13	デジタル認証技術である生体認証について説明し、映像を見ながらディスカッションを行い、その課題を行う。				事前：生体認証を調べる。 事後：生体認証を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
14	インターネット社会の情報セキュリティインターネット事件の最近の事例を説明し、それについてディスカッションを行う。				事前：情報セキュリティ事件の事例を調べる。 事後：事例を纏める。			講義 60分、ディスカッション 30分	
15	デジタル認証技術について纏める。デジタル認証技術の授業科目について感想を発表する。				事前：全資料を下読みする。 事後：発表の振り返り。			講義 50分、発表 40分	
教本： なし					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、課題（40%）、発表（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 初回の授業に必ず出席すること。認証技術の基礎知識（定義）を事前に調べる。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	哲学 (Philosophy)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即しトータルに把握できるよう講義を進めたい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>講義「哲学」では、古代から中世へ至る哲学史の系譜をたどり、〈存在論〉の生成と構造を明らかにすることを旨とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	予備考察：哲〈学〉と哲〈学史〉の相同について考察する。					事前：特になし 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
2	【古代哲学】存在・「ある」とはどのようなことか： ミレトス学派の〈アルケー〉論を紹介する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
3	生成「ある」と「なる」： エレア学派とヘラクレイトスの相違を明らかにする。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
4	ピュタゴラス学派の〈数〉概念を分析する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
5	多元論・原子論に関する理解を促す。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
6	ソフィストの営為とその特徴を俯瞰する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
7	ソクラテスによるソフィスト批判について吟味する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
8	プラトン〈イデア〉論の特質を浮き彫りにする。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
9	アリストテレス形而上学①について検討する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
10	アリストテレス形而上学②について検討する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
11	【中世哲学】信仰と知は両立するか： 中世教父哲学における神概念と人間像①を考察する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
12	中世教父哲学における神概念と人間像②を考察する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
13	普遍が先か個物が先か：〈普遍論争〉について詳述する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
14	スコラ哲学の論理①を学ぶ。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
15	スコラ哲学の論理②を学ぶ。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>なし。毎講義時にレジメ（プリント）を配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100％）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>私が提供するものは〈授業〉ではなく〈講義〉です。履修者は主体的に臨むこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>木曜日昼休み。</p>									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	デリバティブ論 (Derivative)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 猛 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	金融・経済の主要科目を履修していること。金融統計学ⅠかⅡを履修済みのこと。							
	そ の 他	専門的に特化した科目であることを認識しておくこと。							
授業概要： デリバティブ論では、先物、オプションおよびスワップを中心に勉強する。先物では、その目的と同時に先渡取引にも触れ、演算の解説も含めて、理解を深める。また、オプション、スワップについては、それぞれ、発生の経緯を踏まえながら、それぞれの特徴と種類・機能について分析を進め、その仕組みの特色を明らかにする。									
授業目標： デリバティブの発生の歴史的背景（アメリカ、オランダなどの歴史）を踏まえ、基本概念について勉強する。次に、先物、オプションおよびスワップについてそれぞれの仕組みおよび機能を研究して、高度な金融取引への理解と関心を深めていく。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	デリバティブ市場の発展と仕組み（欧米市場、歴史的背景） （先物、オプション、スワップ） 発生の背景、種類、特徴を中心に勉強し、まとめる。					事前：テキストの下読み 事後：まとめ		講義	
3・4	デリバティブの機能（リスク・ヘッジ、スベキュレーション） （アービトラージ、レバレッジ） 各機能についての解説。実習と発表					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義・実習	
5・6	デリバティブの種類と特徴、デリバティブ取引のリスク管理 種類、それぞれの特徴、リスク管理について、実習。					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義・実習	
7～9	先物取引の仕組み、特徴、理論価格 先物取引の基本的概念、特徴について実習。					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義・実習	
10～12	オプション取引の特徴と種類、コールとプット、 ボラティリティ オプション取引のまとめと実習。					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義・実習	
13～15	スワップの仕組み・機能、価格 スワップ取引の分類（金利、通貨、エクイティ） 金利スワップの価格、通貨スワップ、エクイティスワップ スワップ取引のまとめと実習。					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義・実習	
教本： 開講時に指示する。					参考文献： 適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等、小テスト・定期試験等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 急速に進化した金融商品について、特徴と仕組みを勉強する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	伝統文化 (Introduction to Japanese Tradition and Culture)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石井 みどり								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>日本人は、海に囲まれた島国で、四季折々の豊かな自然とともに暮らしてきました。有形、無形を問わず、世代を超えて受け継がれてきた文化がたくさんあります。この授業では、特別なハレの場所だけでなく、日常生活の中にある伝統文化を学んでいきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>伝統文化の知識を習得し、その背景にあるものは何か、理解を深めることを目的としています。伝統文化には、日本人のどんな気持が込められているのでしょうか。みなさんは、日本の伝統文化の担い手として、これから何を表現していきますか？</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	伝統文化とは何か 日本の伝統文化					事前：なし 事後：日本の伝統文化		講義 60分 ディスカッション 30分	
3	食の文化 和菓子とお茶					事前：なし 事後：和菓子とお茶		講義 60分 ディスカッション 30分	
4	箸と食具					事前：なし 事後：箸と食具		講義 60分 グループワーク 30分	
5	小野小町と小町神社					事前：なし 事後：小野小町と小町神社		講義 60分 グループワーク 30分	
6	相撲 武道の文化					事前：相撲、武道の文化 事後：なし		講義 50分 グループワーク 40分	
7	昔話の世界 ① 浦島太郎					事前：なし 事後：浦島太郎		講義 60分 ディスカッション 30分	
8	昔話の世界 ② 動物の昔話					事前：なし 事後：動物の昔話		講義 30分 グループワーク 60分	
9	こどもの遊び ① わらべうた					事前：なし 事後：わらべうた		講義 30分 グループワーク 60分	
10	こどもの遊び ② 江戸時代のこどもの遊び					事前：なし 事後：なし		講義 30分 グループワーク 60分	
11	紙の文化 折り紙					事前：なし 事後：紙の文化、折り紙		講義 30分 グループワーク 60分	
12	竹の文化 竹取物語					事前：なし 事後：竹の文化、竹取物語		講義 50分 グループワーク 40分	
13	年中行事 大晦日とお正月					事前：なし 事後：大晦日とお正月		講義 60分 ディスカッション 30分	
14	神と神社の成り立ち					事前：なし 事後：神と神社の成り立ち		講義 60分 ディスカッション 30分	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>資料を配布するので、教科書は指定しません。</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜、指示します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（40%） 授業中の課題、定期試験（60%）等で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>文字だけで判断するのではなく、日本文化の本質を理解するよう心がけてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回の授業で教えます。</p>									



開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	ドイツ語 I (German I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	関口 宏道								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： コミュニケーションは会話のみならず、相手を理解し、自らを理解して貰うための努力の上に成立するものである。そのため、まず相手に理解して貰えるように、出来るだけ正確な発音を徹底的に繰り返し練習する。その上で相手との簡単な挨拶、簡単な表現を学び、反復することでコミュニケーション能力を高める。またドイツ語の構造がどのようになっているかを理解するようにする。ドイツ語自体への関心（言葉の起源や由来、社会の中での意味など）を深め、さらに言語を通してドイツ社会、ドイツ語圏の世界の理解を深める。									
授業目標： 1. 言語運用能力が習得できる。 2. 初級文法前半の知識が習得できる。 3. 日常生活を簡単なドイツ語で表現できる。 4. ドイツ語技能検定5級合格を目指すことができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	アルファベートの発音練習と文字の練習 (1)				事前：なし 事後：発音と文字の練習			講義 60分 演習 30分	
2	アルファベートの発音練習と文字の練習 (2)				事前：なし 事後：聞き取り練習			講義 60分 演習 30分	
3	規則変化動詞の現在人称変化の練習自己紹介をする				事前：なし 事後：規則変化動詞の人称変化の練習			講義 60分 演習 30分	
4	現在人称変化の練習と重要な動詞について趣味を言う				事前：なし 事後：不規則変化動詞の練習、読解			講義 60分 演習 30分	
5	名詞の性と定冠詞の格変化 性質の描写				事前：なし 事後：定冠詞の格変化の練習			講義 60分 演習 30分	
6	定冠詞と不定冠詞の格変化 (1)				事前：なし 事後：格変化の練習			講義 60分 演習 30分	
7	定冠詞と不定冠詞の格変化 (2) 持ち物を言う 中間テスト				事前：なし 事後：定冠詞、不定冠詞の格変化の復習、読解			講義 60分 演習 30分	
8	不規則変化動詞の人称変化 (1) 名詞の複数形				事前：なし 事後：規則変化動詞と不規則変化動詞の人称変化の練習			講義 60分 演習 30分	
9	規則変化動詞と不規則変化動詞の人称変化の練習				事前：なし 事後：不規則変化動詞の人称変化の練習、聞き取り練習、読解			講義 60分 演習 30分	
10	前置詞 (1)				事前：なし 事後：前置詞の練習			講義 60分 演習 30分	
11	前置詞 (2) 曜日ごとの予定を言う				事前：なし 事後：前置詞の復習、読解			講義 60分 演習 30分	
12	副文章				事前：なし 事後：副文章、読解			講義 60分 演習 30分	
13	人称代名詞				事前：なし 事後：人称代名詞 読解			講義 60分 演習 30分	
14	人称代名詞と再帰代名詞時間の言い方				事前：なし 事後：再帰代名詞の練習			講義 60分 演習 30分	
15	冠詞類年齢、家族の職業を言う				事前：なし 事後：冠詞類の練習			講義 60分 演習 30分	
教本： 1. 『ドイツ語の時間（話すための文法）』朝日出版 2016年（¥2,200+税）					参考文献： 辞書を含めて授業中に随時紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 毎週提出の課題で評価する。									
学生へのアドバイス： たえず声を出し、音声を聞いて復習すること、語学はとくに反復、継続が大切です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	ドイツ語Ⅱ (German II)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	関口 宏道								
履 修 条 件	前提科目	ドイツ語Ⅰの履修が望ましい。							
	その他	なし							
授業概要： 簡単な言葉で自分と他者、自らの日常生活を紹介出来るようにする。相手のやさしいドイツ語を聞き取り、これに応答出来るようにする。基本的なドイツ語の構造を理解することにより、読解力を養う。現代ドイツの政治、社会、経済、文化、音楽、芸術、観光、あるいはスポーツ（サッカー、テニスなど）など、そしてEUの中のドイツの存在、ドイツの抱える諸問題について知り、日本との比較をする。									
授業目標： 1. ドイツ語で「話す、聞く」ということの基本がわかる。 2. 初級文法後半の基礎知識が理解できる。 3. 日常生活を簡単なドイツ語で表現できる。 4. ドイツ語技能検定4級合格を目指すことができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	発音練習、動詞現在人称変化の復習 規則変化動詞と不規則変化動詞 haben, sein					事前：なし 事後：発音練習、動詞現在形の人称変化の練習			講義 60分 演習 30分
2	冠詞（定冠詞、不定冠詞） 冠詞類の復習					事前：なし 事後：課題による格変化の練習			講義 60分 演習 30分
3	前置詞の復習					事前：なし 事後：課題による前置詞の練習			講義 60分 演習 30分
4	不定詞の用法と分離動詞 (1)					事前：なし 事後：課題による分離動詞の練習			講義 60分 演習 30分
5	分離動詞 (2)					事前：なし 事後：分離動詞の練習、読解			講義 60分 演習 30分
6	話法の助動詞 用事や希望を言う 中間テスト					事前：なし 事後：作文と読解			講義 60分 演習 30分
7	過去形					事前：なし 事後：過去形の人称変化の練習			講義 60分 演習 30分
8	現在完了形 (1) (haben, sein)					事前：なし 事後：現在完了形の二つの形態に慣れる練習			講義 60分 演習 30分
9	現在完了形 (2) 昨日したことを言う					事前：なし 事後：現在完了形の練習、読解			講義 60分 演習 30分
10	受動態					事前：なし 事後：受動態の練習			講義 60分 演習 30分
11	形容詞の格変化、比較級と最上級 好みを言う					事前：なし 事後：形容詞の格変化の練習、読解			講義 60分 演習 30分
12	関係代名詞 (1)					事前：なし 事後：関係代名詞の練習			講義 60分 演習 30分
13	関係代名詞 (2)、命令部屋にあるものを言う					事前：なし 事後：関係代名詞が使われた文章の読解			講義 60分 演習 30分
14	接続法 (1) 間接話法					事前：なし 事後：間接話法の練習			講義 60分 演習 30分
15	接続法 (2) 非現実話法仮定の話をする					事前：なし 事後：接続法の復習			講義 60分 演習 30分
教本： 1. 『ドイツ語の時間（話すための文法）』朝日出版 2016年（¥2,200+税）					参考文献： 辞書を含めて授業中に随時紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 毎週提出の課題で評価する。									
学生へのアドバイス： たえず声を出し、音声を聞いて復習すること、語学はとくに反復、継続が大切です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	統計学 (Statistics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： 近年、データ分析を専門とするデータサイエンティストという職種が着目されているが、統計学はデータサイエンティストだけでなく、一般のビジネスパーソンにとっても必要な基礎知識である。本講義では、統計学の基礎知識とサンプルデータによる演習課題を通してその活用法を学ぶ。									
授業目標： 統計学の基礎知識を学ぶことにより、データを分析・理解するための基礎能力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、統計学の概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	記述統計Ⅰ 統計学で用いる用語、基本統計量					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
3	記述統計Ⅱ ヒストグラム、正規分布					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
4	統計量要約グラフ 箱ひげ図、パレート図					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
5	相関分析 共分散、相関係数					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
6	確率論の基礎Ⅰ 確率と確率変数					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
7	確率論の基礎Ⅱ 確率分布					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
8	母集団と標本					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
9	統計的推定Ⅰ					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
10	統計的推定Ⅱ					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
11	統計的検定Ⅰ					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
12	統計的検定Ⅱ					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
13	回帰分析Ⅰ					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
14	回帰分析Ⅱ					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
15	まとめと活用事例					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
教本： 講義初回のガイダンスで指示する。					参考文献： 講義内で指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	統 計 学 (Statistics)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	岡 猛 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 統計学を初めて学ぶ人のための科目で、いろいろな統計データの入手が、大変簡単になっている現在、それらデータの持つ意味を考える上で有用な各種統計手法について、勉強する。									
授 業 目 標 : われわれの身の回りで接する統計データの見方について勉強するとともに、それらがどんな意味を持つのかを分析する姿勢を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1・2	記述統計学と推測統計学 代表値、ヒストグラム					事前：テキストの下見 事後：まとめと実習		講義・演習	
3・4	分散と標準偏差					事前：テキストの下見 事後：まとめと実習		講義・演習	
5・6	正規分布					事前：テキストの下見 事後：まとめと実習		講義・演習	
7	確率、確率変数					事前：テキストの下見 事後：まとめと実習		講義・演習	
8・9	区間推定					事前：テキストの下見 事後：まとめと実習		講義・演習	
10・11	仮説検定					事前：テキストの下見 事後：まとめと実習		講義・演習	
12・13	相関分析、相関係数、共分散					事前：テキストの下見 事後：まとめと実習		講義・演習	
14・15	回帰分析					事前：テキストの下見 事後：まとめと実習		講義・演習	
教 本 : 統計学入門 小島寛之著 ダイアモンド社					参 考 文 献 : 追って連絡する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等、小 テ ス ト ・ 課 題 提 出 ・ レ ポ ー ト ・ 定 期 試 験 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : いろいろ発表される統計データに関心を持つと同時に、自分なりに分析してみてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	読書と豊かな人間性 (Reading and Rich Humanity)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： (1) 発達段階に応じた読書教育の理念と学校図書館の在り方、司書教諭の役割を理解する。 (2) 読書会、ブックトークと学習指導のとの関わりを重点的に演習する。									
授業目標： 1. 豊かな人間性を育む読書活動の意義と目的から、読書活動を推進する学校図書館の在り方を考察し、司書教諭の役割を学ぶ 2. 読書会、読み聞かせ、ブックトークなどの企画・実践を具体的に演習することで読書指導の内容と方法を学ぶ 3. 家庭、地域、公共図書館との連携の在り方を学ぶ									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	人間教育のとしての読書の意義と目的について自分の経験を話し合い、学習への構えをつくる。(オリエンテーション)					事前：なし 事後：感想200字		話し合い 45分、講義 45分	
2	厚木中央図書館を見学し、図書カードを作成、見学し。学校図書館の機能と生涯学習について気づいたことをまとめる。					事前：なし 事後：感想200字		実地見学 70分、まとめ 20分	
3	絵本との出会い「ブックスタート運動」について厚木中央図書館司書唐説明を受け、質疑する。					事前：予習 事後：感想200字		講義 45分、質疑 20分、 児童図書見学 25分	
4	公立中中学校の年間読書指導計画を資料として、発達段階と読書の興味を考える					事前：資料を読む 事後：感想200字		資料を読む 30分、討議 30分、 まとめ 30分	
5	読書環境作りを考える。(朝読書、読書週間など時間確保、読書の習慣、動機付け) 本学図書館の改善点を考える。					事前：事前見学 事後：感想200字		本学図書館を見学 45分、 改善点を議論する 45分	
6	近隣の中学校図書室を見学、図書資料の選定について考える。(多様化する読書材、ヤングアダルト、マンガ、雑誌など)					事前：予習 事後：感想200字		図書室見学 60分、討議 30分	
7	国語科の授業を例にして、学習指導から発展読書を構想する					事前：資料を読む 事後：感想200字		資料を読む 45分、討議 45分	
8	「読書会」の実際を学ぶ。環境をテーマに、「読書会」をひらく。資料を集める。					事前：資料を読む 事後：図書館での資料集め		中央図書館で資料を集める 70分、まとめ 20分	
9	「読書会」を開催する。全員が発表し、環境問題について語り合う。					事前：発表原稿を書いてくる 事後：感想200字		読書会 60分、討論 30分	
10	「読み聞かせ」の意義と技法。新美南吉「ごんぎつね」を読み聞かせる技法を学び練習する					事前：「ごんぎつね」を読む 事後：感想200字		講義 30分、練習 60分	
11	「読み聞かせ」の会を開催する。全員が好きな本を朗読する					事前：練習してくる 事後：感想200字		朗読会 60分、感想交流 30分	
12	「ブックトーク」とは何か? 「ブックトーク」のVTRを鑑賞する。自分のテーマを考える。					事前：資料を読む 事後：感想200字		講義 30分、VTR 30分、 テーマ設定 30分	
13	「ブックトーク」の構成を考え、発表原稿作成をする					事前：資料収集 事後：感想200字		紹介本の構成と発表原稿作り 90分	
14	「ブックトーク」の会を開催、意見交換する					事前：発表原稿作成 事後：感想200字		ブックトーク 60分、 意見交換 30分	
15	読書と人間教育の観点から司書教諭の役割と課題を考える。まとめ					事前：なし 事後：感想1200字		意見交換 45分、 まとめの文章 45分	
教本： 教室で紹介する。					参考文献： 教室で指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (40%)、演習・レポート等 (50%)、定期試験 (10%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 司書教諭資格の必修の授業です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	特 別 支 援 教 育 論 (Special Needs Education)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菊 地 創								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 特 別 支 援 教 育 の 歴 史 、 関 連 法 お よ び さ ま ざ ま な 障 害 に 応 じ た 教 育 の 基 本 に つ い て 学 ぶ 。 こ の 科 目 は 、 子 ど も の 人 権 に 配 慮 し 、 人 権 教 育 を 実 践 で き る 人 材 を 養 成 す る 科 目 で あ る 。									
授 業 目 標 : 特 別 な 支 援 を 要 す る 子 ど も た ち に つ い て 理 解 を 含 め 、 適 切 な 教 育 有 り 方 に つ い て 説 明 で き る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 、 障 碍 者 権 利 条 約 に つ い て 学 ぶ 。					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 90 分	
2	特 別 支 援 教 育 の 歴 史 、 イ ン ク ル ー シ ブ 教 育 シ ス テ ム の 構 築 に つ い て 学 び 、 自 身 の 考 え や 疑 問 点 に つ い て 発 表 を 行 う 。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
3	特 別 支 援 教 育 関 係 法 令 、 特 別 支 援 教 育 の 諸 現 場 と 合 理 的 配 慮 に つ い て 学 び 、 自 身 の 考 え や 疑 問 点 に つ い て 発 表 を 行 う 。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
4	視 覚 障 害 児 の 理 解 と 教 育 方 法 に つ い て 事 例 な ど を 通 して 学 び 、 自 身 の 考 え や 疑 問 点 に つ い て 発 表 を 行 う 。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
5	聴 覚 障 害 児 の 理 解 と 教 育 方 法 に つ い て 事 例 な ど を 通 して 学 び 、 自 身 の 考 え や 疑 問 点 に つ い て 発 表 を 行 う 。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
6	知 的 障 害 児 の 理 解 と 教 育 方 法 に つ い て 事 例 な ど を 通 して 学 び 、 自 身 の 考 え や 疑 問 点 に つ い て 発 表 を 行 う 。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
7	肢 体 不 自 由 児 の 理 解 と 教 育 方 法 に つ い て 事 例 な ど を 通 して 学 び 、 自 身 の 考 え や 疑 問 点 に つ い て 発 表 を 行 う 。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
8	病 弱 ・ 身 体 虚 弱 児 の 理 解 と 教 育 方 法 に つ い て 事 例 な ど を 通 して 学 び 、 自 身 の 考 え や 疑 問 点 に つ い て 発 表 を 行 う 。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
9	重 複 障 害 、 重 度 重 複 障 害 児 の 理 解 と 教 育 方 法 に つ い て 事 例 な ど を 通 して 学 び 、 自 身 の 考 え や 疑 問 点 に つ い て 発 表 を 行 う 。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
10	言 語 障 害 児 の 理 解 と 教 育 方 法 に つ い て 事 例 な ど を 通 して 学 び 、 自 身 の 考 え や 疑 問 点 に つ い て 発 表 を 行 う 。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
11	情 緒 障 害 児 の 理 解 と 教 育 方 法 に つ い て 事 例 な ど を 通 して 学 び 、 自 身 の 考 え や 疑 問 点 に つ い て 発 表 を 行 う 。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
12	自 閉 ス ペ ク ト ラ ム 症 の 理 解 と 教 育 方 法 に つ い て 事 例 な ど を 通 して 学 び 、 自 身 の 考 え や 疑 問 点 に つ い て 発 表 を 行 う 。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
13	注 意 欠 如 ・ 多 動 症 、 学 習 障 害 の 理 解 と 教 育 方 法 に つ い て 事 例 な ど を 通 して 学 び 、 自 身 の 考 え や 疑 問 点 に つ い て 発 表 を 行 う 。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
14	家 族 支 援 、 関 係 機 関 と の 連 携 方 法 に つ い て 事 例 な ど を 通 して 学 び 、 自 身 の 考 え や 疑 問 点 に つ い て 発 表 を 行 う 。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト 、 疑 問 点 の 整 理 。		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
15	講 義 全 体 の ま と め と 理 解 度 の 確 認 を 行 う 。					事 前 : 講 義 全 体 の 復 習 事 後 : 理 解 の 補 完		講 義 70 分 、 発 表 20 分	
教 本 : 授 業 プ リ ン ト と 関 連 資 料 を 提 供 す る 。					参 考 文 献 : 「 特 別 支 援 教 育 の 基 礎 ・ 基 本 2020 」 独 立 行 政 法 人 国 立 特 別 支 援 教 育 総 合 研 究 所 (著) ジ ア ー ス 教 育 新 社				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (30%) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%) 、 定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 受 講 の 態 度 や マ ナ ー に 留 意 す る こ と 。 障 害 児 や 特 別 支 援 教 育 に 関 す る 記 事 や 報 道 な ど に 関 心 を 持 ち 、 そ れ ら を 身 近 な 問 題 と し て 考 え て ほ し い 。 ま た 、 講 義 内 容 に 関 す る リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー の 提 出 を 求 め ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	2週間80時間以上	授業形態	実習
授業科目(英文)	特別実習 I (Social Action Project through Service-Learning I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：学外の国公立・民間研究所・団体などにおいて、特定の実習テーマについて実習を行い、レポートを提出する。</p> <p>① インターンシップ-就業体験のために、学生が企業や県の研究機関などにおいて一定期間の実習を行う。</p> <p>② 起業実習-現場での体験を通して、それまでに講義で身に付けたことを実践・検証する。就職活動における自分の適正について考え、同時に企業研究・業界研究を行なう機会となる。</p> <p>③ ボランティアボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を学習した後に、学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する。</p> <p>④ 被災地支援ボランティア</p> <p>⑤ 短期海外留学（留学を除く）</p>									
<p>授業目標：</p> <p>地域社会に出ていき、地域や組織の人たちと一緒に、インターンシップ・ボランティア活動等を体験することを通して、大学での学習の意味や将来の進路について考えるきっかけを作ること目標とする。インターンシップに取り組んだり、地域社会でボランティア活動を体験することを通して、人材に求められる課題発見解決力やチームワーク力を養成することを目指す。</p> <p>感じる力、生きる力、考える力、コミュニケーション力、マナーや常識について学び、行動力、責任感そして使命感を身に付ける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	<p>①学生は実習を行う前に、担当教員（石上）をたずね、「特別実習申請書」を貰って記入・提出する。</p> <p>②提出後、実習を終了したら、「特別実習報告書」を担当教員（石上）に提出すること。</p> <p>③実習時間は80時間以上が必要です。</p>					事前： 事後：		実習	
2						事前： 事後：		実習	
3						事前： 事後：		実習	
4						事前： 事後：		実習	
5						事前： 事後：		実習	
6						事前： 事後：		実習	
7						事前： 事後：		実習	
8						事前： 事後：		実習	
9						事前： 事後：		実習	
10						事前： 事後：		実習	
11						事前： 事後：		実習	
12						事前： 事後：		実習	
13						事前： 事後：		実習	
14						事前： 事後：		実習	
15						事前： 事後：		実習	
教本： なし						参考文献： 適宜指示する			
成績評価の方法、評価基準： 評価の配分基準：実習（90％）レポート（10％）									
学生へのアドバイス： 特別実習に関心をもち、実際に行動に移して誠意をもって活動または貢献を行う学生のみが履修すること。									
オフィスアワー：									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	2週間80時間以上	授業形態	実習
授業科目(英文)	特別実習Ⅱ (Social Action Project through Service-Learning Ⅱ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	特別実習A							
	その他	なし							
<p>授業概要：学外の国公立・民間研究所・団体などにおいて、特定の実習テーマについて実習を行い、レポートを提出する。</p> <p>① インターンシップ-就業体験のために、学生が企業や県の研究機関などにおいて一定期間の実習を行う。</p> <p>② 起業実習-現場での体験を通して、それまでに講義で身に付けたことを実践・検証する。就職活動における自分の適正について考え、同時に企業研究・業界研究を行なう機会となる。</p> <p>③ ボランティア-ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を学習した後に、学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する。</p> <p>④ 被災地支援ボランティア</p> <p>⑤ 短期海外留学（留学を除く）</p>									
<p>授業目標：</p> <p>地域社会に出ていき、地域や組織の人たちと一緒に、インターンシップ・ボランティア活動等を体験することを通して、大学での学習の意味や将来の進路について考えるきっかけを作ること目標とする。インターンシップに取り組んだり、地域社会でボランティア活動を体験することを通して、人材に求められる課題発見解決力やチームワーク力を養成することを目指す。</p> <p>感じる力、生きる力、考える力、コミュニケーション力、マナーや常識について学び、行動力、責任感そして使命感を身に付ける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	<p>①学生は実習を行う前に、担当教員（石上）をたずね、「特別実習申請書」を貰って記入・提出する。</p> <p>②提出後、実習を終了したら、「特別実習報告書」を担当教員（石上）に提出すること。</p> <p>③実習時間は80時間以上が必要です。</p>					事前： 事後：		実習	
2						事前： 事後：		実習	
3						事前： 事後：		実習	
4						事前： 事後：		実習	
5						事前： 事後：		実習	
6						事前： 事後：		実習	
7						事前： 事後：		実習	
8						事前： 事後：		実習	
9						事前： 事後：		実習	
10						事前： 事後：		実習	
11						事前： 事後：		実習	
12						事前： 事後：		実習	
13						事前： 事後：		実習	
14						事前： 事後：		実習	
15						事前： 事後：		実習	
教本： なし						参考文献： 適宜指示する			
成績評価の方法、評価基準： 評価の配分基準：実習（90％）レポート（10％）									
学生へのアドバイス： 特別実習に関心をもち、実際に行動に移して誠意をもって活動または貢献を行う学生のみが履修すること。									
オフィスアワー：									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	特 別 の 支 援 を 必 要 と す る 幼 児 理 解 (障 が い 児 保 育) (Childcare of disabled children)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菊 地 創								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
心 身 の 成 り 立 ち と 発 達 の プ ロ セ ス に つ い て の 理 解 を も と に、 発 達 上 の 障 害 ・ 偏 り ・ 養 育 上 の 問 題 な ど に よ り、 特 別 の 支 援 を 要 す る 幼 児 の 状 態 像 に つ い て 学 ぶ。 さ ら に 特 別 支 援 教 育 に 関 す る 制 度 の 理 念 や 仕 組 み、 関 係 機 関 ・ 家 庭 と の 連 携 の あ り 方 を 学 び、 さ ま ざ ま な 事 例 を も と に 適 切 な 支 援 方 法 を 検 討 す る。									
授 業 目 標 :									
心 身 の 発 達 に 障 害 や 偏 り な ど さ ま ざ ま な 困 難 を 抱 え て い る 幼 児 の 特 性 や 心 身 の 発 達 を 理 解 す る。 幼 児 の 生 活 上 の 困 難 を 理 化 し、 個 別 の 教 育 的 ニーズ を 検 討 し、 他 の 教 員 や 関 連 機 関 と 連 携 し な が ら 対 応 し て い く た め に、 必 要 な 知 識 や 具 体 的 支 援 方 法 を 理 解 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、 重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	特 別 な 支 援 を 要 す る 幼 児 の 例 を あ げ な が ら 講 義 の 概 要 を 説 明 す る。 課 題 に つ い て の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
2	心 身 の 障 害 を 理 解 に 必 要 な 神 経 系 ・ 感 覚 器 や、 障 害 の 定 義 や 分 類 に つ い て 解 説 す る。 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
3	障 害 児 保 育 の 理 念 と 健 診 シ ス テ ム ・ 自 立 支 援 シ ス テ ム ・ 特 別 支 援 教 育 に つ い て 検 討 す る。 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
4	自 閉 ス ペ ク ト ラ ム 症 の 特 性 や 心 身 の 発 達、 教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。 事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
5	注 意 欠 如 多 動 症、 学 習 障 害 の 特 性 や 心 身 の 発 達、 教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。 事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
6	視 覚 障 害 の あ る 幼 児 の 特 性 や 心 身 の 発 達、 教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。 事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
7	聴 覚 障 害 の あ る 幼 児 の 特 性 や 心 身 の 発 達、 教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。 事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
8	知 的 障 害 の あ る 幼 児 の 特 性 や 心 身 の 発 達、 教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。 事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
9	肢 体 不 自 由 の あ る 幼 児 の 特 性 や 心 身 の 発 達、 教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。 事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
10	病 弱 の あ る 幼 児 の 特 性 や 心 身 の 発 達、 教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。 事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
11	社 会 ・ 成 育 環 境 上 の 問 題 を 抱 え る 幼 児 の 理 解 と 対 応 に つ い て 検 討 す る。 事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
12	家 庭 へ の 対 応 ・ 支 援 方 法 に つ い て に つ い て 検 討 す る。 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
13	園 内 や、 外 部 機 関 と 連 携 し、 支 援 す る 方 法 に つ い て に つ い て 検 討 す る。 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
14	自 立 活 動、 個 別 の 指 導 計 画 お よ び 個 別 の 教 育 支 援 計 画 に つ い て に つ い て 検 討 す る。 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、 疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、 発 表 20 分	
15	講 義 全 体 の ま と め と 理 解 度 の 確 認 を 行 う。					事 前 : 講 義 全 体 の 復 習 事 後 : 理 解 の 補 完		講 義 90 分	
教 本 :			参 考 文 献 :						
授 業 プ リ ン ト と 関 連 資 料 の 提 供。			「 新 版 障 害 児 保 育 」 谷 田 貝 公 昭 ・ 石 橋 哲 成 (監 修) 一 藝 社						
成 績 評 価 の 方 法、 評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (30%)、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、 定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
受 講 の 態 度 や マ ナ ー に 留 意 す る こ と。 障 が い や 社 会 ・ 成 育 環 境 上 の 問 題 を 抱 え る 幼 児 に 関 す る 情 報 に ア ン テ ナ を 張 っ て、 積 極 的 に ア ク セ ス す る よ う に し て く だ さ い。 ま た、 講 義 内 容 に 関 す る リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー の 提 出 を 求 め ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									